

厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）

平成23-25年度 総括研究報告書

慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究

研究代表者 相崎 英樹 国立感染症研究所・ウイルス第二部 室長

研究要旨

肝炎ウイルス検査陽性者のアンケート調査から、肝炎ウイルス検査により見いだされた陽性者のフォローアップが予後向上に重要であると考えられた。平成23年度からモデル地区を設定して、「肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステム」を構築し、肝炎ウイルス検査陽性者の現状把握および治療勧奨を行ってきた。受診勧奨開始後1年目の調査ではその有効性がある程度示された。さらに、個別に識別できるシステムにしたモデル地区では、それぞれの陽性者の現状に即した形で受診勧奨が可能になった。本システムをより多くの自治体が導入しやすいように「肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップ事業の導入マニュアル」を策定した。個人情報保護と自治体の人的・予算的負担の問題を解決した本システムは幅広い自治体で受け入れ可能と期待できる。本マニュアルは主として自治体や保健所での利用を想定して作成しているが、職域検診などでの肝炎ウイルス検査陽性者においても利用可能である。

分担研究者

正木尚彦（国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター肝炎・情報センター長）

工藤正俊（近畿大学医学部消化器内科・教授）

菊池嘉（国立国際医療研究センターエイズ治療開発研究センター・部長）

吉岡健太郎（藤田保健衛生大学肝胆膵内科・教授）

米田政志（愛知医科大学消化器内科・教授）

島上哲朗（金沢大学附属病院光学医療診療部・助教）

坂本穰（山梨大学医学部附属病院肝疾患センター・センター長・准教授）

渡邊綱正（公立大学法人名古屋市立大学大学院医学研究科・講師）

石上雅敏（名古屋大学医学部附属病院消化器内科・講師）

飯島 尋子（兵庫医科大学内科肝胆膵科・教授、超音波センター・センター長）

A. 研究目的

初回供血者集団及び節目健診受診者の値を元に国勢調査人口を用いてHBV、HCVキャリア数を推計すると、それぞれ約90、80万人であり（田中ら、日本臨床2011）、これは自覚症状のないまま社会に潜在しているキャリア数に相当し、放置すれば肝硬変、肝がんに進行することから、肝炎対策は最優先の課題となっている。現

在、国が実施している肝炎総合対策は(1)医療費助成、(2)肝炎ウイルス検査促進、(3)診療・相談体制の整備など患者支援、(4)正しい知識普及、(5)研究推進、の5本柱で進められている。しかしながら、「肝炎ウイルス検査促進」に関しては、節目健診の対象者の約27%しか検査を受けていない(林、日本臨床2011)。さらに、「医療費助成」に関しては制度としては存在するものの、0.92%の方が検査陽性だったにもかかわらず専門医療機関受診はHBV58.7%、HCV76.2%と低値で、さらに受診したHCV陽性者のうち34.3%しかIFN治療を受けておらず、本人の意思だけでなく、医師の判断や説明が影響してものと考えられている。以上のように、肝炎対策のうち「肝炎ウイルス検査促進」、「医療費助成」は必ずしも十分に機能していないことがわかってきた。実際、A県では、平成24年度県内の約50自治体で約3万件の肝炎ウイルス検査が行われ、陽性者への告知は4割が自治体、残りは委託機関から行われ、その方法は3割が郵送によるものであり、さらに1年以上フォローアップしているのは1自治体のみであり、多くの肝炎ウイルス検査陽性者は一度告知を受けた後はフォローされていないなかった。

以上のように、「肝炎ウイルス検査促進」により見出された肝炎ウイルス検査陽性者を専門医療機関に勧奨する必要があることは明らかだが、自治体が保有する肝炎ウイルス検診陽性者リストは「個人情報」であるため、医療機関側からのアクセスは困難となっている。そこで、肝炎ウイルス検診陽性者フォローアップシステムの構築は陽性者の予後のため大変重要と考えられる。本研究では肝炎ウイルスキャリアの情報収集の在り方を検討するために、HIV感染者や肝がん患者などの登録方法に関する情報、諸外国における肝炎ウイルスキャリア検診とそのフォローアップに関する情報を収集し検討する。さらに、自治体との連携、かかりつけ医・専門医療機関との連携を築き、

各地域における肝炎検診陽性者の情報収集における個人情報の取り扱い方について検討する。肝炎検診陽性者を医療機関で補足および追跡が可能なシステムを構築することにより、肝炎キャリアの予後向上に資することが期待できる。

また、治療著効例や自然治癒例でも肝炎ウイルス残存やウイルス血症の再燃に関する議論があり、「潜在的肝炎ウイルス感染」という新しい概念が提唱された。この概念はキャリアの予後を考える上でも重要である。肝炎ウイルス検査陽性者の追跡調査において見出された「潜在的肝炎ウイルス感染」の病態を解明し、適切なフォローアップの方法を決定したい。

B. 研究方法

1. 情報収集の仕方の検討

既に構築されている肝疾患に対するIFN治療効果判定報告書の情報収集システム、肝がん患者登録システム、HIV感染者管理システムを参考に、キャリアの情報収集の内容、匿名化等について検討を行う。

1) 肝癌のデータベース(工藤班員)

日本肝癌研究会で行っているデータ収集方法につき班員に紹介する。

2) 肝炎に関する全国規模のデータベース(正木班員)

(1) 初年度：平成21～23年度厚生労働科学研究「肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究(研究代表者：正木尚彦)」における「データ収集の手法、個人情報保護に関する検討」を紹介する。

(2) 2年目：構築したデータベースがどの程度忠実に真の患者集団を反映しているかについて考察するために、平成21～23年度厚生労働科学研究「肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究(研究代表者：正木尚彦)」で収集

した患者情報、および、各自治体が平成20～22年度にインターフェロン医療費助成交付を決定した患者母集団情報のうち、C型肝炎患者の年齢分布のみを検討対象としたサブ解析を行った。

(3) 最終年度：より効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムを構築するために、肝炎検診受検率アップの方策、病院・診療所における陽性者フォローアップシステムの拡充、効率的な陽性者追跡システムの構築・普及の3点に関して検討した。

3) ウイルス性感染症の診療データ(菊池班員)

現状の肝炎症例の収集の情報を調査の上、現在一般に用いられているITテクノロジー/ソリューションの中から、より情報共有を円滑化し、有効に役立てることができるものを検討した。

2. 肝炎ウイルス検査陽性者の追跡調査システム構築

人口や医療環境が異なる石川県、山梨県、愛知県での肝炎ウイルス検診陽性症例情報収集の取り組みについて、その過程で明らかになった問題点等を解析した。

1) 山梨県での診療ネットワークの構築(坂本班員)

肝炎ウイルス検診陽性者を確実に把握し、医療機関で捕捉・追跡を行い適切な医療へと導くことは、肝炎ウイルス感染に起因する肝硬変や肝がん抑止のために重要な施策である。このために検診陽性者追跡システムを構築することは急務であるが、個人情報保護の問題や地域行政の人材不足などからこれまで困難であった。そこで、本研究では、肝炎ウイルス検査後の情報提供の在り方に関するアンケートを行い、検査結果が必ずしも適切な受診に結びついていない実態を明らかにし、情報提供や肝炎専門医療機関での受診に繋げることをサポートする人材

として「肝炎コーディネーター」を養成してきた。

2) 石川県での検診フォローアップ(島上班員)

(1) 本連携開始2年前より行政側とデータ移管に関しての問題点を数度にわたり検討した。

(2) 初年度肝炎診療連携に参加同意して肝炎拠点病院への調査票の返送のあった症例のうち、翌年度も調査票の返送があった返送群、調査票の返送のなかった脱落群の臨床、社会的背景の比較を肝炎診療連携データベースを用いて行った。

(3) 石川県肝炎診療連携により移管された検診フォローアップデータと今回の専門医受診による診断、治療データを統合したデータベースを作成した。

3) 愛知県での追跡調査システム構築(米田、吉岡、片野、石上班員)

(1) 岡崎市(吉岡班員)

肝炎ウイルス検診で発見された陽性者が適切な診断をされ、適切に治療されているか検討するために岡崎市で行われた肝炎ウイルス検診陽性者にアンケートを送付し、その後の対応について調査した。

(2) 豊橋市(石上班員)

本研究では愛知県豊橋市保健所の協力の下、肝炎ウイルス陽性判明者におけるその後の受診行動の有無、治療の実情についてのアンケート調査、およびそのアンケート調査がその後未受診の陽性者の受診勧奨に寄与したか、の2点について検討した。

(3) モデル地区および職域検診(渡邊班員)

肝炎ウイルス検査陽性者の医療導入状況を明らかとする後ろ向き調査を行った結果、肝臓専門機関の紹介 肝臓専門医の介入 未受診者の拾い上げ、等が追跡システム構築に欠かすことができない

と考えられた。また、検診情報を管理する自治体側からも専門的な医療相談が可能な窓口となり得るシステム構築の要望があった。一方、これまでの住民を対象とする検診のみではなく就労者が受ける職場健診の状況把握も重要で、そのために周辺開業医（2名）と産業医（1名）が介する検討会を行った。

（4）職域検診（米田班員）

愛知県豊田市の協力と同じ豊田市に所在するS社工業名古屋工場の協力を得て、住民検診と職域検診における肝炎ウイルス検診後のアンケートによる追跡調査で肝炎ウイルス陽性者の現状を比較検証した。

3. 潜在的肝炎ウイルス感染の解析

治療著効例や自然治癒例でも肝炎ウイルスゲノム残存やウイルス血症の再燃はないのか以前より議論があり、このような症例の肝臓組織や末梢血単核球から微量であるが高率にウイルスが検出されたことから「潜在的肝炎ウイルス感染」という新しい概念が提唱された。本研究で行われる検査陽性者の追跡において見出されたHCV自然治癒例、IFN著効例、occult HBV肝炎患者等についてウイルス学的に解析し、適切な追跡方法を決定したい。

（1）肝組織内のウイルスの遺伝子レベルの解析（飯島班員）

HBV潜在性肝炎患者の肝組織からのHBV-DNA検出、およびHCV潜在性肝炎患者の肝組織からのHCV-RNA検出を行った。

（2）肝組織内のウイルスの組織学的解析（相崎班員）

「潜在的肝炎ウイルス感染」といっても多様な病態が考えられるので、「血中ウイルス遺伝子陰性・肝障害持続例」に注目し、その組織内のウイルスの存在様式、電子顕微鏡での組織観察を行った。

（倫理面の配慮）

各種研究材料の取り扱い及び組換えDNA実験は国立感染症研究所内のバイオリスク管理委員会、組換えDNA実験委員会等の承認を受けて行った。本調査についての倫理的側面は国立感染症研究所、および各大学医学部倫理審査委員会で審査承認を得ることにしている。

C. 研究結果

1. 情報収集の仕方の検討

1) 肝癌のデータ収集（工藤班員）

日本肝癌研究会として、(1) 第18回原発性肝癌追跡調査の発行、(2) 第19回原発性肝癌追跡調査、(3) 第20回原発性肝癌追跡調査、(4) NCD(National Clinical Database)へのデータベース移行検討作業などを行った。

2) 肝炎に関する全国規模のデータベース（正木班員）

(1) 初年度：分担研究者が構築している患者データベースは、医療費助成を受けたB型・C型肝炎患者に対するインターフェロン治療の効果判定報告書を対象としたものである。

(2) 2年目：各自治体が平成20～22年度にインターフェロン医療費助成交付を決定した患者母集団情報については、26協力自治体から提供を受けた。

(3) 最終年度：より効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムを構築するためのポイントについて、以下の3点を提言した。今後、職域検診の実態についての全国的な調査を行うとともに、法律家もまじえて議論を深める必要がある。電子カルテ採用施設においてはオーダーリングトップページに「陽性者への精査勧奨」を示すアラーム設定が効果的との報告もある。陽性者追跡システムは石川、山梨、佐賀等の限られた自治体において運用実績があるが、独自性は高いものの汎用性の面で課題があり、他

自治体へ広げる動きすらない。今後、システム改良に取り組む必要がある。

3) ウイルス性感染症の診療データ(菊池班員)

このような診療データの集約・共有には患者個人情報の問題が大きな障壁になると共に、各施設の保有しているデータの保管方法などの違いから互換性が問題となっていた。そこで、集団検診などの情報を有している自治体に赴きその実態を調査してきた。担当者による見解は様々であったが、研究班のどこかの臨床施設でしっかりとした倫理審査を経て、自治体が持っている住民健診などのデータの個人情報をマスクして提出する手段が簡便に出来れば、自治体からは肝炎に関する臨床データが利用できる可能性を感じた。

2. 肝炎検査陽性者の追跡調査システム構築

1) 山梨県での診療ネットワークの構築(坂本班員)

これまで205名が資格取得し、資格既取者には「スキルアップ講座」を開催し、最新情報の提供や知識の再確認をするとともに、コーディネーター間の情報交換と交流を深めるための「肝疾患コーディネーターネットワーク」も構築した。この事業の成果につき、アンケート調査で検討すると、これまで養成したコーディネーターは十分機能を発揮しており、今後も肝炎診療において中心的な人材となりうる事が明らかになった。一方、かかりつけ医(一次医療機関)と肝臓専門医と肝炎診療ネットワークを構築し、肝炎診療に重要なウイルス遺伝子、ヒトゲノム(G)、発癌リスク評価に重要な肝線維化測定(F)を測定する「肝炎サポート(Y-PERS〔GF〕)を開設した。

2) 石川県での追跡調査システム構築(島上班員)

(1) 石川県肝炎診療連携の開始課程に関して

現在フォローしている症例よりデータ移管を含めたこの連携に参加する再同意を取得し、同意の得られた症例を順次データ移管することとなった。また拠点病院と専門医療機関で新たに「石川県肝炎診療連携協議会」を発足させ、この協議会でデータ管理・診療連携の運営を行っていくこととした。

(2) 肝炎診療連携参加同意者のフォローアップに関して

本連携参加同意者は住所などの個人情報を肝疾患拠点病院に移管されているため、参加同意翌年から毎年肝疾患拠点病院から調査票を患者に直接送付した。

3) 愛知県での追跡調査システム構築

事務局から自治体に、「アンケート用紙、治療勧奨を呼びかける手紙、肝疾患相談室の相談体制のリスト、専門医療機関リスト、日本肝臓学会専門医リスト、返信用封筒」を送り、自治体で肝炎ウイルス検診陽性者の住所に郵送した。陽性者からの調査票は自治体に返送してもらい、匿名化後、分担研究者へ郵送し、分担研究者の施設でアンケートの解析を行った。

(1) 岡崎市(吉岡班員)

BおよびC型肝炎ウイルスについて検診陽性者のうち病院・医療機関を受診した人の多くに慢性肝炎・肝硬変・肝細胞癌が発見されており、検診陽性者の受診勧奨が重要であることが示された。また肝疾患専門医療機関を受診した人では慢性肝炎・肝硬変・肝細胞癌が発見される頻度がそれ以外の医療機関を受診した人に比べて高く、治療介入が行われている頻度も高く、肝疾患専門医療機関への受診勧奨の必要性を示すものと思われた。アンケート調査後に医療機関を受診した人や今後医療機関を受診すると回答した人が多く、アンケート調査にも受診勧奨の

効果があると考えられた。今回の調査では調査票に通し番号を振り、岡崎市保健所では個人識別ができるようにした。この方法により保健所ではアンケート調査の結果によって、直接個人に受診勧奨を行うことが可能になった。個人情報および通し番号と個人の連結表は岡崎市保健所が管理し、当研究班の班員は、個人情報をみることはできないように工夫した。

（２）豊橋市（石上班員）

平成24年度には平成19-23年度の5年間にウイルス陽性が判明した59名を対象としたアンケートを行い、また平成25年度は前年度のアンケートが受診勧奨に寄与したかを主眼とし、調査を行った。本検討で浮き彫りとなった問題点としては、(1)若年層(50歳未満)、および男性での回答率が低く、また未受診と回答した方の多くが「今後も受診の必要なし」と考えていることがわかり、これらの層に対するより能動的な啓蒙活動が必要であること、(2)前年度アンケートに回答されている方はアンケート受領時には病院受診をすでにされている方が多数を占め、肝炎ウイルス陽性という事実に対する認識にかなり個人差があることが推測されたこと、(3)受診医療機関別では非専門医で治療導入の機会が少ない可能性、また一度受診しても通院をやめているケースが多く見受けられ、きちんと肝臓専門医への受診に適切に誘導することが重要と考えられた。

（３）モデル地区および職域検診（渡邊班員）

アンケート調査を通じて、自治体担当者から、「数多く存在する医療機関との調整に苦慮する場合に相談できる窓口が欲しい」との意見がでた。肝疾患診療専門医らが参画する追跡システムは、肝炎ウイルス検査陽性者を追跡するのみでなく、検診情報を管理している自治体現場の相談窓口としての機能を担い、検診現場から医療機関への情報伝達促進に一役

担うことが期待される。

（４）職域と住民検診の比較（米田班員）

職域検診は平成15年から24年度のS社名古屋工場における肝炎ウイルス検診受診者1,620名のうちHBs抗原陽性者(B型)26名(1.60%)、HCV抗体陽性者(C型)10名(0.62%)の計36名を対象に社内郵便を利用してアンケートを送付し回答を回収した。肝炎ウイルス陽性者はB型においては住民検診、職域検診ともに60代をピークに分布していたが、職域検診においては20代、30代といった若年者にも陽性者が見られた。C型では住民検診で陽性者が70代をピークに分布し80代でもかなりの陽性者が認められ、職域検診では60代をピークに分布していた。職域検診では定年退職等でアンケートを送付できなかった者があり、特にC型で80%が既に退職していた。検診後の医療機関受診率は、住民検診でB型64.3%、C型86.8%であり、職域検診でB型72.7%、C型100%と職域検診で高率であった。受診医療機関は住民検診においてはかかりつけ医が57%であったが、職域検診では会社の診療所が60%、かかりつけ医が20%で併せて80%に達した。肝臓専門医の診察を受けているものは、住民検診が45%であるのに対し、職域検診では80%に及んだ。

3. 潜在的肝炎ウイルス感染の解析

（１）肝組織内のウイルスの遺伝子レベルの解析（飯島班員）

血中HBV-DNA陰性症例において、4例中1例で肝組織中にHBV-DNAを検出した。HBsAg escape mutantと考えられる1例で、肝組織中HBV-DNAは陰性で測定感度にも問題が残る。血中HCV-RNA陰性症例において、4例中1例で肝組織中にHCV-RNAを検出した。

（２）肝組織内のウイルスの組織学的解析（相崎班員）

HCV RNA 陽性肝炎患者の肝組織の電顕観

察にて、細胞質の空胞化、核膜の不整、脂肪滴の数の増加・脂肪滴周囲に強いシグナル、ミトコンドリアのクリステ構造の破壊、膜小胞の集積像・増加、星細胞の脂肪滴増加等の所見が観察された。これらの所見のうち HCVRNA 陽性肝炎患者、ミトコンドリアのクリステ構造の破壊、膜小胞の集積像は NASH に比べて著明に増加していた。HCVRNA 陽性肝炎患者では脂肪滴の増加も観察されたが、これは NASH 患者でも同様の所見が見られた。上記の HCVRNA 陽性肝炎患者の肝組織の電顕観察で見られた所見に注目して、HCVRNA 陰性肝障害患者の肝組織の電顕観察を行った。細胞質の空胞化、核膜の不整、脂肪滴周囲に強いシグナル、ミトコンドリアのクリステ構造の破壊、膜小胞の集積像・増加が認められた。

D. 考察

HIV患者、肝癌患者、IFN治療者の情報について個人情報の管理法について調べ、肝炎ウイルス検査陽性者に応用可能な方法を見出した。

肝炎ウイルス感染の情報は非常に高度な個人情報である一方、検診で陽性と判明した場合にその症例が疾患の重要性を知らないまま医療機関受診していない、あるいは定期受診から脱落してしまうのを検診主体である行政が放置しておくことにも大きな問題がある。石川県では検診開始当初より医療側と行政側の協力体制ができており、行政側も疾患の特徴、重要性に理解があった。このため患者より再同意を得る手順を踏むことで個人情報を含めた情報の移管に協力が得られ、石川県肝炎診療連携がスタートしており、そこで見出され問題点は、本研究班での追跡システムに大変参考になるものと考えられた。また、山梨県では今後実用化されるDAA (Direct acting antiviral) に対する薬剤耐性変異も測定可能とし、広く診療に役立てるような仕組みを構築

し個別化医療への道を開いた。「個別化

医療」の方針は、肝炎陽性者の個別の現状を把握できるモデルシステムでは有効であるものと考えられた。

愛知県では肝炎ウイルス検査陽性者の追跡を管理する行政体制は各自治体(市レベル)に一任されており、検査陽性者の医療導入は満足いくものではない。今後、肝炎ウイルス検査陽性者の医療導入を目指すためには、肝臓専門機関への紹介
肝臓専門医の介入 未受診者の拾い上げ、が急務であるといえる。さらに、調査では調査票に通し番号を振り、岡崎市保健所では個人識別ができるようにした。この方法により保健所ではアンケート調査の結果によって、直接個人に受診勧奨を行うことが可能になった。個人情報および通し番号と個人の連結表は岡崎市保健所が管理し、当研究班の班員は、個人情報を見ることはできないように工夫した。職域検診と住民検診の比較から、会社組織という特異的な集団であったために定年退職等で既に会社に在籍しておらず、アンケート調査を行うことができなかった肝炎ウイルス陽性者もいたことは注目すべき事実であると考えられた。

血清ウイルス遺伝子陰性者でも肝機能異常が見られる症例では肝組織にウイルスが残存している症例が見出された。

E. 結論

慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集における問題点を解決するためには、さまざまな視点からの一層の取り組みが必要であり、医療関係者のみならず行政担当者の積極的な関与が望まれる。石川県、山梨県はこの分野で先駆的な試みを行っており、他の地域でも参考になるものの、他の地域でも導入するにはその地域の現状に合わせた方法が必要と考えられた。

愛知県岡崎市での2回目のアンケート調査の結果からは、アンケート調査自体が、受診勧奨の役目を果たすことが示された。今後、肝炎ウイルス検査陽性者の

医療導入を目指すためには、肝臓専門機関への紹介 肝臓専門医の介入 未受診者の拾い上げ、が急務であるといえた。

受診医療機関は住民検診においてはかかりつけ医が57%であったが、職域検診では会社の診療所が60%、かかりつけ医が20%で併せて80%に達しており、身近に会社診療所を有する職域検診の方が、肝炎ウイルス陽性者の受診アクセスの利便性が反映されているものと思われる。しかし、ウイルス性肝炎陽性者のデータは個人情報保護の観点から会社の診療所では確認することができず、何らかの改善策を講じる必要があると思われた。

自然治癒例やIFN著効例で、血中HCV遺伝子が陰性の症例でも、肝組織内にウイルスが潜在し、ウイルス特有のオルガネラ変化を来している可能性が示された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 正木尚彦 . ウイルス肝炎に関する国の対策事業、公費助成や受診勧奨など . 特集 ウイルス肝炎の新展開 . 診断と治療 101(9) : 1375-1380, 2013.
- 2) 正木尚彦 . 肝炎をめぐる医療政策 . 医学のあゆみ 240(12) : 997-999, 2012. (3月24日号)
- 3) 正木尚彦 . 急性肝炎サーベイランスの現状 . わが国における急性肝炎の現状全国調査2008-2011 (山本和秀監修、考田雅彦・能祖一裕編集)、中外医学社、東京、pp20-25、2012.
- 4) 正木尚彦 . ウイルス肝炎検診と病診連携の重要性と進めかた . Medical Practice 28(8) : 1453-1457, 2011.
- 5) Takayasu K, Arii S, Sakamoto M, Matsuyama Y, Kudo M, Ichida T,

Nakashima O, Matsui O, Izumi N, Ku Y, Kokudo N, Makuuchi M, Liver Cancer Study Group of Japan: Clinical implication of hypovascular hepatocellular carcinoma studied in 4,474 patients with solitary tumour equal or less than 3 cm. Liver Int, 33: 762-770, 2013.

- 6) Nouse K, Miyahara K, Uchida D, Kuwaki K, Izumi N, Omata M, Ichida T, Kudo M, Ku Y, Kokudo N, Sakamoto M, Nakashima O, Takayama T, Matsui O, Matsuyama Y, Yamamoto K, the Liver Cancer Study Group of Japan: Effect of hepatic arterial infusion chemotherapy of 5-fluorouracil and cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma in the Nationwide Survey of Primary Liver Cancer in Japan. Brit J Cancer 109: 1904-1907, 2013.
- 7) Hasegawa K, Kokudo N, Makuuchi M, Izumi N, Ichida T, Kudo M, Ku Y, Sakamoto M, Nakashima O, Matsui O, Matsuyama Y, for the Liver Cancer Study Group of Japan.: Comparison of resection and ablation for hepatocellular carcinoma: a cohort study based on a Japanese nationwide survey. J Hepatol 58: 724-729, 2013.
- 8) Takayasu K, Arii S, Kudo M, Ichida T, Matsui O, Izumi N, Matsuyama Y, Sakamoto M, Nakashima O, Ku Y, Kokudo N, Makuuchi M: Supers elective transarterial chemoembolization for

- hepatocellular carcinoma. Validation of treatment algorithm proposed by Japanese guidelines. *J Hepatol* 56: 886-892, 2012.
- 9) Higashi T, Hasegawa K, Kokudo N, Makuuchi M, Izumi N, Ichida T, Kudo M, Ku Y, Sakamoto M, Nakashima O, Matsui O, Matsuyama Y, Sobue T; the Liver Cancer Study Group of Japan: Demonstration of quality of care measurement using the Japanese liver cancer registry. *Hepatol Res* 41: 1208-1215, 2011.
 - 10) Eguchi S, Kanematsu T, Arii S, Omata M, Kudo M, Sakamoto M, Takayasu K, Makuuchi M, Matsuyama Y, Monden M, for the Liver Cancer Study Group of Japan: Recurrence-free survival more than 10 years after liver resection for hepatocellular carcinoma. *Brit J Surg* 98: 552-557, 2011.
 - 11) Nishijima T, Gatanaga H, Shimbo T, Komatsu H, Nozaki Y, Nagata N, Kikuchi Y, Yanase M, Oka S. Traditional but Not HIV-Related Factors Are Associated with Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Asian Patients with HIV-1 Infection. 2014 Jan 31; 9(1):e87596.
 - 12) Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Matsuura K, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Tokunaga K, Mizokami M, Izumi N. Model incorporating the ITPA genotype identifies patients at high risk of anemia and treatment failure with pegylated-interferon plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C. *J Med Virol*. 2013 85(3): 449-58
 - 13) Miura M, Maekawa S, Takano S, Komatsu N, Tatsumi A, Asakawa Y, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Yamashita A, Moriishi K, Enomoto N. Deep-Sequencing Analysis of the Association between the Quasispecies Nature of the Hepatitis C Virus Core Region and Disease Progression. *J. Virol*. 2013 87(23):12541-12551.
 - 14) Shindo H, Maekawa S, Komase K, Miura M, Sueki K, Komatsu K, Shindo K, Amemiya F, Nakayama T, Inoue T, Sakamoto M, Yamashita A, Moriishi K, Enomoto N. IL28B(IFN- λ 3) and IFN- α synergistically inhibit HCV replication. *J Viral hepatitis. J Virol Hepat.* 2013; 20(4): 281-289
 - 15) Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Sugauchi F, Sakamoto N, Yatsushashi H, Izumi N. Age and total ribavirin dose are independent predictors of relapse after interferon therapy in chronic hepatitis C revealed by data mining analysis. *Antiviral Therapy* 2012 17: 35-43
 - 16) Miura M, Maekawa S, Kadokura M, Sueki R, Komase K, Shindo H, Ohmori T, Kanayama A, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Kitamura T, Uetake T, Inoue T,

- Sakamoto M, Okada S, Enomoto N. Analysis of viral amino acids sequences and the IL28B SNP influencing the development of hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. *Hepatol Int* 2012; 6: 386-396
- 17) Shindo H, Maekawa S, Komase K, Sueki R, Miura M, Kadokura M, Shindo K, Amemiya F, Kitamura T, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Okada S, Asahina Y, Izumi N, Honda M, Kaneko S, Enomoto N. Characterization of naturally occurring protease inhibitor-resistance mutations in genotype 1b hepatitis C virus patients. *Hepatol Int* 2012; 6: 386-396
- 18) Osada M, Kaneko M, Sakamoto M, Endoh M, Takigawa K, Inoue-Suzuki K, Inoue O, Satoh K, Enomoto N, Yatomi Y, Ozaki Y. Causes of thrombocytopenia in chronic hepatitis C viral infection. *Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis* 2012 18: 272-280
- 19) Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Izumi N. Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. *J Hepatol* 2012 56(6): 602-608
- 20) Maekawa S, Sakamoto M(equally contributed), Miura M, Kadokura M, Sueki R, Komase K, Shindo H, Komatsu N, Shindo K, Kanayama A, Ohmori T, Amemiya F, Takano S, Yamaguchi T, Nakayama Y, Kitamura T, Inoue T, Okada S and Enomoto N. Comprehensive analysis for viral elements and IL28B polymorphisms in response to peginterferon plus ribavirin therapy in HCV-1b infection. *Hepatology* 2012, 56; 1611-1621
- 21) Sueki R, Maekawa S, Miura M, Kadokura M, Komase K, Shindo H, Kanayama A, Ohmori T, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Enomoto N. J Med Virol. Correlation between pretreatment viral sequences and the emergence of lamivudine resistance in hepatitis B virus infection. *J Med Virol.* 2012; 84: 1360-1368
- 22) Komase K, Maekawa S, Miura M, Miura M, Sueki R, Kadokura M, Shindo H, Shido K, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Yamashita A, Moriishi K, Enomoto N. The serum RANTES level influences the response to pegylated-interferon and ribavirin therapy in chronic hepatitis C. *Hepatology Research* 2012; 43: 865-875
- 23) Kadokura M, Maekawa S, Sueki R, Miura M, Komase K, Shindo H, Amemiya F, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe M, Enomoto N. Analysis of the

- complete open reading frame of genotype 2b hepatitis C virus in association with the response to peginterferon and ribavirin therapy. Plos One 2011; 6(9): e24514
- 24) Hiramatsu N, Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Sugauchi F, Tamori A, Matsuura K, Izumi N. Pretreatment prediction of anemia progression by pegylated interferon alpha-2b plus ribavirin combination therapy in chronic hepatitis C infection: Decision-tree analysis. J Gastroenterol 46: 1111-1119, 2011
- 25) Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Honda M, Sugauchi M, Matsuura K, Sugauchi F, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Sakai A, Kaneko S, Ito K, Masaki N, Tokunaga K, Izumi N, Mizokami M. Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in *IL28B* and viral factors. J Hepatol 2011 54: 439-448, 2011
- 26) Kadokura M, Maekawa S, Sueki R, Miura M, Komase K, Shindo H, Amemiya F, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe M, Enomoto N. Analysis of the complete open reading frame of hepatitis C virus genotype 2a infection reveals critical site influencing the response to peginterferon and ribavirin therapy. Hepatol Int; 5(3): 789-799, 2011
- 27) Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramatsu N, Sugauchi F, Tamori A, Nakagawa M, Izumi N. Sequences in the Interferin Sensitivity Determining Region and Core Region of Hepatitis C Virus Impact Pretreatment Prediction of Response to Peg-interferon Plus Ribavirin: Data Mining Analysis. J Med Virol; 83: 445-452, 2011
- 28) Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramatsu N, Sugauchi F, Yatsunami H, Izumi N. Pretreatment prediction of response to peginterferon plus ribavirin therapy in genotype 1 chronic hepatitis C using data mining analysis. J Gastroenterol; 46: 401-409, 2011
- 29) 坂本穰、榎本信幸、C型肝炎治療における宿主因子とウイルス因子 実地診療での臨床応用のすすめかた、Medical Practice 30(2); 323 - 328、2013
- 30) 坂本穰、榎本信幸、慢性肝炎・肝硬変(C型)、治療過程で一目でわかる消化器薬物療法 STEP 1・2・3(一瀬雅夫、岡政志、持田智編集)、174-178、2013、メジカルビュー社、東京
- 31) 坂本穰、榎本信幸、C型肝硬変における抗ウイルス療法、Modern physician 33(4) 454-458、2013
- 32) 辰巳明久、坂本穰、榎本信幸、メタボ肝臓とファイブロスキャン、メタボ肝臓(小俣政男編集)、163-168、2013、アークメディア、東京
- 33) 坂本穰、榎本信幸、ウイルス変異と宿

- 主ゲノムからみたインターフェロン療法の治療成績と発癌リスクを考慮した新規治療法への展望、消化器内科 56 (4)、437-442、2013
- 34) 小松信俊、坂本穰、榎本信幸、透析患者に対する薬の使い方 疾患別・病態別[消化器] 549-552
- 35) 坂本穰、榎本信幸、発癌リスクと治療藩反応性を考慮した C 型肝炎の最新治療、消化器内科 57 (3)、379-384、2013
- 36) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎診療 up-to-date、発癌リスクと新規治療法、診断と治療 101(9)、1277-1282、2013
- 37) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎、カラー版消化器病学 基礎と臨床(浅香正博、菅野健太郎、千葉勉編)、1177-1188、2013
- 38) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎の自然経過と発癌リスク、成人病と生活習慣病 43 (11)、1310-1315、2013
- 39) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎ウイルスと治療、HIV 感染症と AIDS の治療 4 (2)、55-59、2013
- 40) 坂本穰、榎本信幸、プロテアーゼ阻害剤に対する耐性変異と意義、肝胆膵 67 (6)、893-898、2013
- 41) 坂本穰、B 型肝炎のインターフェロン治療: sequential thrapy を含めて、Phama Medica 31 (12)、49-52、2013
- 42) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎と肝癌 - 発癌リスクとウイルス排除の可能性、特集肝癌診療の最前線 - 知っておきたい診断・治療の新情報、内科; 109 (3): 420-424、2012
- 43) 坂本穰、榎本信幸、抗 HCV 薬、特集: 抗ウイルス薬、日本臨床; 70 (4)、614-619、2012
- 44) 坂本穰、榎本信幸、ウイルス変異と宿主ゲノム解析からみた PEG-IFN+RBV 療法と Protease 阻害剤の適応、消化器内科 54 (4): 454-458、2012
- 45) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎の個別化治療 - 肝発がんの危険性とウイルス排除の可能性を考慮して -、Medical Practuce 29 (6): 1048 - 1049、2012
- 46) 坂本穰、榎本信幸、ペグインターフェロン + リバビリリン + テラプレビル併用療法 - 宿主・ウイルス因子の解析からみた最適な治療」、消化器の臨床; 15 (3): 249-256、2012
- 47) 坂本穰、榎本信幸、C 型肝炎のウイルス変異と治療効果、総合臨床 60(1)、19-25、2011
- 48) 坂本穰、榎本信幸、ウイルス変異からみた PEG-IFN+RBV 療法の治療効果予測、肝胆膵 62 (2)、307-313、2011
- 49) 坂本穰、榎本信幸、[C 型肝炎の治療 初回治療]について、ガイドライン/ガイダンス 慢性肝炎 こう診る・こう考える(泉並木編)、日本医事新報社、東京、20-25、2011
- 50) 坂本穰、榎本信幸、硬変化した慢性肝炎の治療をどう考えるか、消化器 Book 04 これでわかる! 慢性肝炎の治療戦略 肝癌を防ぐためのマネジメント(井廻道夫企画)、羊土社、東京、106-112、2011
- 51) 坂本穰、榎本信幸、HCV の NS5A 遺伝子変異 (ISDR・IRRDR) とインターフェロン治療反応性、新時代のウイルス性肝炎学、日本臨床 69 増刊号 4、日本臨床社、大阪、234-238、2011
- 52) 坂本穰、榎本信幸、肝炎診療に必要な遺伝子検査。C 型肝炎の遺伝子解析と診療への応用、Medical Practice 28 (8)、1383-1388、2011
- 53) 三浦美香、前川伸哉、門倉信、末木良太、小馬瀬一樹、進藤浩子、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、植竹智義、井上

- 泰輔、坂本穰、榎本信幸. 肝発癌に関連する C 型肝炎ウイルス遺伝子領域と *IL28B* SNP の解析、分子消化器病研究会 第 18 回浜名湖シンポジウム記録集 消化器疾患と幹細胞 ; その基礎と臨床、アークメディア、171-177、2011
- 54) 酒井明人, 荒井邦明、金子周一 肝臓癌の予防とサーベイランス G.I.Research 19 巻 Page334-341、2011
- 55) 酒井明人、金子周一 石川県肝炎ウイルス検診フォローアップ事業からみた状況解析と継続した改善 第 48 回日本肝臓学会 ワークショップ平成 24 年 6 月 8 日
- 56) 酒井明人、金子周一 県下肝炎ウイルス検診陽性者の検診後病態進展度 JDDW2012 シンポジウム 平成 24 年 10 月 11 日
- 57) Posuwan N, Payungporn S, Tangkijvanich P, Ogawa S, Murakami S, Iijima S, Matsuura K, Shinkai N, Watanabe T, Poovorawan Y, Tanaka Y. Genetic association of human leukocyte antigens with chronicity or resolution of hepatitis B infection in thai population. PLoS One. 2014;9(1):e86007.
- 58) Matsuura K, Watanabe T, and Tanaka Y. Role of *IL28B* for chronic hepatitis C treatment toward personalized medicine. J Gastroenterol Hepatol. 2014;29(2):241-9.
- 59) Ragheb MM, Nemr NA, Kishk RM, Mandour MF, Abdou MM, Matsuura K, Watanabe T, Tanaka Y. Strong prediction of virological response to combination therapy by *IL28B* gene variants rs12979860 and rs8099917 in chronic hepatitis C genotype 4. Liver Int. 2013 in press.
- 60) Watanabe T, Inoue T, Tanoue Y, Maekawa H, Hamada-Tsutsumi S, Yoshiba S, Tanaka Y. Hepatitis C Virus Genotype 2 May Not Be Detected by the Cobas AmpliPrep/Cobas TaqMan HCV Test, Version 1.0. J Clin Microbiol. 2013;51(12):4275-6.
- 61) Shinkai N, Matsuura K, Sugauchi F, Watanabe T, Murakami S, Iio E, Ogawa S, Nojiri S, Joh T, Tanaka Y. Application of a Newly Developed High-Sensitivity HBsAg Chemiluminescent Enzyme Immunoassay for Hepatitis B Patients with HBsAg Seroclearance. J Clin Microbiol. 2013; 51(11):3484-91.
- 62) Wong DK, Watanabe T, Tanaka Y, Seto WK, Lee CK, Fung J, Lin CK, Huang FY, Lai CL, Yuen MF. Role of HLA-DP polymorphisms on chronicity and disease activity of hepatitis B infection in Southern Chinese. PLoS One. 2013; 8(6):e66920.
- 63) Arata S, Nozaki A, Takizawa K, Kondo M, Morimoto M, Numata K, Hayashi S, Watanabe T, Tanaka Y, Tanaka K. Hepatic failure in pregnancy successfully treated by online hemodiafiltration: Chronic hepatitis B virus infection without viral genome mutation. Hepatol Res. 2013;43(12):1356-60.

- 64) Sakamoto T, Tanaka Y, Watanabe T, and Mizokami M. Mechanism of the dependence of hepatitis B virus genotype G on co-infection with other genotypes for viral replication. *J Viral Hepat*, 2013; 20(4), e27-36.
- 65) Watanabe T, and Tanaka Y. Reactivation of hepatitis viruses following immunomodulation systemic chemotherapy. *Hepatol Res*. 2013; 43(2):113-21.
- 66) Watanabe T, Sugauchi F, Tanaka Y, and Mizokami M. Hepatitis C virus kinetics by administration of pegylated interferon- α in human and chimeric mice carrying human hepatocytes with variants of the IL28B gene. *GUT*. 2013; 62(9): 1340-6.
- 67) Kani S, Tanaka Y, Matsuura K, Watanabe T, Yatsunashi H, Orito E, Inose K, Motojuku N, Wakimoto Y, and Mizokami M. Development of new IL28B genotyping method using Invader Plus assay. *Microbiol Immunol*. 2012; 56(5): 318-23.
- 68) Yoshioka K. What is the benefit of computer-assisted image analysis of liver fibrosis area? *Journal of gastroenterology* 2013; 48(8): 996-997
- 69) Yoshioka K. How to adjust the inflammation-induced overestimation of liver fibrosis using transient elastography? *Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology* 2013; 43(2): 182-184
- 70) Hayashi K, Katano Y, Masuda H, Ishizu Y, Kuzuya T, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Ishikawa T, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Pegylated interferon monotherapy in patients with chronic hepatitis C with low viremia and its relationship to mutations in the NS5A region and the single nucleotide polymorphism of interleukin-28B. *Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology* 2013;
- 71) 中野若香菜, 池夏希, 石渡朝子, 伊藤広子, 菱田麻由佳, 伊藤志歩, 花下順子, 池田綾子, 原田雅生, 川部直人, 橋本千樹, 吉岡健太郎. C型肝硬変患者に対する分岐鎖アミノ酸製剤による late evening snackを含む栄養管理の長期効果 . 栄養評価と治療 2012;29(4):357-363.
- 72) Yoshioka K, Hashimoto S. Can non-invasive assessment of liver fibrosis replace liver biopsy? *Hepatol Res* 2012;42(3):233-40.
- 73) Hayashi K, Katano Y, Kuzuya T, Tachi Y, Honda T, Ishigami Nakano M, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Prevalence of hepatitis C virus genotype 1a in Japan and correlation of mutations in the NS5A region and single-nucleotide polymorphism of interleukin-28B with the response to combination therapy with pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin. *J Med Virol* 2012;84(3):438-44.
- 74) Osakabe K, Ichino N, Nishikawa T, Sugiyama H, Kato M, Kitahara S, Hashimoto S, Kawabe N, Harata M, Nitta Y, Murao M, Nakano T,

- Shimazaki H, Arima Y, Suzuki K, Yoshioka K. Reduction of liver stiffness by antiviral therapy in chronic hepatitis B. *J Gastroenterol* 2011; 46(11): 1324-34.
- 75) Chayama K, Hayes CN, Yoshioka K, Moriwaki H, Okanoue T, Sakisaka S, Takehara T, Oketani M, Toyota J, Izumi N, Hiasa Y, Matsumoto A, Nomura H, Seike M, Ueno Y, Yotsuyanagi H, Kumada H. Factors predictive of sustained virological response following 72 weeks of combination therapy for genotype 1b hepatitis C. *J Gastroenterol* 2011; 46(4): 545-555.
- 76) Hayashi K, Katano Y, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Mutations in the core and NS5A region of hepatitis C virus genotype 1b and correlation with response to pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin combination therapy. *J Viral Hepat* 2011; 18(4): 280-286.
- 77) Hayashi K, Katano Y, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Ishikawa T, Nakano I, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Association of interleukin 28B and mutations in the core and NS5A region of hepatitis C virus with response to peg-interferon and ribavirin therapy. *Liver Int* 2011;31(9): 1359-65.
- 78) Harata M, Hashimoto S, Kawabe N, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Arima Y, Shimazaki H, Ishikawa T, Okumura A, Ichino N, Osakabe K, Nishikawa T, Yoshioka K. Liver stiffness in extrahepatic cholestasis correlates positively with bilirubin and negatively with alanine aminotransferase. *Hepatol Res* 2011; 41(5): 423-429.
- 79) Hayashi K, Katano Y, Masuda H, Ishizu Y, Kuzuya T, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Ishikawa T, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Pegylated interferon monotherapy in patients with chronic hepatitis C with low viremia and its relationship to mutations in the NS5A region and the single nucleotide polymorphism of interleukin-28B. *Hepatol Res* 2013;43:580-588
- 80) Honda T, Katano Y, Kuzuya T, Hayashi K, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Ishikawa T, Toyoda H, Kumada T, Yamamoto K, Matsushita T, Kojima T, Takamatsu J, Goto H. Comparison of the efficacy of ribavirin plus peginterferon alfa-2b for chronic hepatitis C infection in patients with and without coagulation disorders. *J Med Virol* 2013;85:228-234
- 81) Hayashi K, Katano Y, Kuzuya T, Tachi Y, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Ishikawa T, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Prevalence of hepatitis C virus genotype 1a in Japan and correlation of mutations in the NS5A region and single-nucleotide polymorphism with the response to combination therapy with

- pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin. J Med Virol 2012;84:438-444
- 82) Ishizu Y, Katano Y, Honda T, Hayashi K, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Goto H. Clinical impact of HFE mutations in Japanese patients with chronic hepatitis C. J Gastroenterol Hepatol 2012;27:1112-1116
- 83) Mitsunori Y, Tanaka S, Nakamura N, Ban D, Irie T, Noguchi N, Kudo A, Iijima H, Arii S. Contrast-enhanced intraoperative ultrasound for hepatocellular carcinoma: high sensitivity of diagnosis and therapeutic impact. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2013 ; 20 : 234-42
- 84) Bota S, Sporea I, Peck-Radosavljevic M, Sirli R, Tanaka H, Iijima H, Saito H, Ebinuma H, Lupsor M, Badea R, Fierbinteanu-Braticevici C, Petrisor A, Friedrich-Rust M, Sarrazin C, Takahashi H, Ono N, Piscaglia F, Marinelli S, D'Onofrio M, Gallotti A, Salzl P, Popescu A, Danila M. The influence of aminotransferase levels on liver stiffness assessed by Acoustic Radiation Force Impulse Elastography: A retrospective multicentre study. Dig Liver Dis. 2013 : S1590-8658(13)00061-3. [Epub ahead of print]
- 85) Tamura Y, Suda T, Arii S, Sata M, Moriyasu F, Imamura H, Kawasaki S, Izumi N, Takayama T, Kokudo N, Yamamoto M, Iijima H, Aoyagi Y. Value of Highly Sensitive Fucosylated Fraction of Alpha-Fetoprotein for Prediction of Hepatocellular Carcinoma Recurrence After Curative Treatment. Dig Dis Sci. 2013 ; 58 : 2406-12
- 86) Enomoto H, Sakai Y, Aizawa N, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Kunihiro H, You K, Ishii A, Takashima T, Iwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S. Association of amino acid imbalance with the severity of liver fibrosis and esophageal varices. Ann Hepatol. 2013 ; 12 : 471-8
- 87) Tanaka H, Iijima H, Higashiura A, Yoh K, Ishii A, Takashima T, Sakai Y, Aizawa N, Iwata K, Ikeda N, Iwata Y, Enomoto H, Saito M, Imanishi H, Hirota S, Fujimoto J, Nishiguchi S. New malignant grading system for hepatocellular carcinoma using the Sonazoid contrast agent for ultrasonography. J Gastroenterol. 2013 ; [Epub ahead of print]
- 88) 飯島尋子, 井倉技, 中山晴夫, 小林正宏, 熊田博光, 井廻道夫. 血清アルブミン濃度が軽度~中等度に低下した肝硬変患者のQOLに及ぼすリーバクト R 配合顆粒の影響. Medicine and Drug Journal. 2013 ; 49 : 127-39
- 89) Singh S, Eaton JE, Murad MH, Tanaka H, Iijima H, Talwalkar JA. Accuracy of Spleen Stiffness Measurement in Detection of Esophageal Varices in Patients With Chronic Liver Disease: Systematic Review and Meta-analysis. Clin Gastroenterol Hepatol. 2013 Sep 18. pii:

- S1542-3565. [Epub ahead of print]
- 90) Aizawa N, Enomoto H, Takashima T, Sakai Y, Iwata K, Ikeda N, Tanaka H, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S. Thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C. *J Gastroenterol*. 2013 Sep 25. [Epub ahead of print]
- 91) Inoue T, Hyodo T, Murakami T, Takayama Y, Nishie A, Higaki A, Korenaga K, Sakamoto A, Osaki Y, Aikata H, Chayama K, Suda T, Takano T, Miyoshi K, Koda M, Numata K, Tanaka H, Iijima H, Ochi H, Hirooka M, Imai Y, Kudo M. Hypovascular Hepatic Nodules Showing Hypointense on the Hepatobiliary-Phase Image of Gd-EOB-DTPA-Enhanced MRI to Develop a Hypervascular Hepatocellular Carcinoma: A Nationwide Retrospective Study on Their Natural Course and Risk Factors. *Dig Dis*. 2013 ; 31 : 472-9
- 92) Iwamoto M, Watashi K, Tsukuda S, Aly1 HH, Fukasawa M, Suzuki R, Aizaki H, Ito T, Koiwai O, Kusuhara H, Wakita T, Evaluation and Identification of hepatitis B virus entry inhibitors using HepG2 cells overexpressing a membrane transporter NTCP, *Biochem Biophys Res Commun*. 2014;443:808-13.
- 93) Sakata K, Hara M, Terada T, Watanabe N, Takaya D, Yaguchi S, Matsumoto T, Matsuura T, Shirouzu M, Yokoyama S, Yamaguchi T, Miyazawa K, Aizaki H, Suzuki T, Wakita T, Imoto M, Kojima S. HCV NS3 protease enhances liver fibrosis via binding to and activating TGF- β type I receptor. *Sci Rep*. 2013;22:3243.
- 94) Nakajima S, Watashi K, Kamisuki S, Tsukuda S, Takemoto K, Matsuda M, Suzuki R, Aizaki H, Sugawara F, Wakita T. Specific inhibition of hepatitis C virus entry into host hepatocytes by fungi-derived sulochrin and its derivatives. *Biochem Biophys Res Commun*. 2013;440:515-20.
- 95) Suzuki R, Ishikawa T, Konishi E, Matsuda M, Watashi K, Aizaki H, Takasaki T, Wakita T. Production of single-round infectious chimeric flaviviruses with DNA-based Japanese encephalitis virus replicon. *J Gen Virol*. 2014;95:60-65.
- 96) Watashi K, Liang G, Iwamoto M, Marusawa H, Uchida N, Daito T, Kitamura K, Muramatsu M, Ohashi H, Kiyohara T, Suzuki R, Li J, Tong S, Tanaka Y, Murata K, Aizaki H, Wakita T. Interleukin-1 and Tumor Necrosis Factor- α Trigger Restriction of Hepatitis B Virus Infection via a Cytidine Deaminase Activation-induced Cytidine Deaminase (AID). *J Biol Chem*. 2013;288:31715-27.
- 97) Suzuki R, Matsuda M, Watashi K, Aizaki H, Matsuura Y, Wakita T, Suzuki T. Signal peptidase complex subunit 1 participates in the assembly of hepatitis C virus through an interaction with E2 and NS2. *PLoS Pathog*. 2013;9:e1003589.

- 98) Matsumoto Y, Matsuura T, Aoyagi H, Matsuda M, Hmwe SS, Date T, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Ichinose S, Wake K, Suzuki T, Miyamura T, Wakita T, Aizaki H. Antiviral activity of glycyrrhizin against hepatitis C virus in vitro. PLoS One. 2013;18;8(7):e68992.
- 99) Akazawa D, Moriyama M, Yokokawa H, Omi N, Watanabe N, Date T, Morikawa K, Aizaki H, Ishii K, Kato T, Mochizuki H, Nakamura N, Wakita T. Neutralizing antibodies induced by cell culture-derived hepatitis C virus protect against infection in mice. Gastroenterology. 2013;145:447-55.
- 100) 相崎英樹, HCV感染と代謝異常 (脂質・エネルギー)、医学のあゆみ、医歯薬出版株式会社、東京、2013;245:666-667.
- 101) Liu HM, Aizaki H, Machida K, Ou JH, Lai MM. Hepatitis C virus translation preferentially depends on active RNA replication. PLoS One. 2012;7:e43600.
- 102) Suzuki R, Saito K, Kato T, Shirakura M, Akazawa D, Ishii K, Aizaki H, Kanegae Y, Matsuura Y, Saito I, Wakita T, Suzuki T. Trans-complemented hepatitis C virus particles as a versatile tool for study of virus assembly and infection. Virology. 2012;10:29-38.
- 103) Murayama A, Sugiyama N, Watashi K, Masaki T, Suzuki R, Aizaki H, Mizuochi T, Wakita T, Kato T. Japanese reference panel of blood specimens for evaluation of hepatitis C virus RNA and core antigen quantitative assays. J Clin Microbiol. 2012;50:1943-9.
- 104) Ando T, Imamura H, Suzuki R, Aizaki H, Watanabe T, Wakita T, Suzuki T. Visualization and Measurement of ATP Levels in Living Cells Replicating Hepatitis C Virus Genome RNA. PLOS Pathogen 2012;8:e1002561.
- 105) 田中純子、小山富子、相崎英樹. C型肝炎ウイルス(HCV)による感染. 日本臨床ウイルス学会、臨床とウイルス、2012;40:28-35.
- 106) 相崎英樹, HCV感染と代謝異常 (脂質・エネルギー)、医学の歩み、2012; in press.
- 107) 相崎英樹, HCV粒子形成に關与する脂肪滴周辺蛋白の同定と機能解析、Liver Forum in Kyoto第14回学術集会記録集、メディカルトリビューン、2012;30-33.
- 108) 相崎英樹, C型肝炎ウイルスの生活環、細胞、ニューサイエンス社、東京、2012; in press.
- 109) Ando T, Imamura H, Suzuki R, Aizaki H, Watanabe T, Wakita T, Suzuki T. Visualization and Measurement of ATP Levels in Living Cells Replicating Hepatitis C Virus Genome RNA. PLOS Pathogen in press.
- 110) 田中純子、小山富子、相崎英樹. C型肝炎ウイルス(HCV)による感染. 日本臨床ウイルス学会、臨床とウイルス、in press.
- 111) Yamamoto M, Aizaki H, Fukasawa M, Teraoka T, Miyamura T, Wakita T, Suzuki T, The structural requirements of virion-associated cholesterol for infectivity, buoyant density and apolipoprotein association of

- hepatitis C virus. J Gen.Virol. 2011;92:2082-7.
- 112) Watanabe N, Aizaki H, Matsuura T, Kojima S, Wakita T, Suzuki T. Hepatitis C virus RNA replication in human stellate cells regulates gene expression of extracellular matrix-related molecules. Biochem Biophys Res Commun. 2011;407:135-40.
- 113) Inoue Y, Aizaki H, Hara H, Matsuda M, Ando T, Shimoji T, Murakami K, Masaki T, Shoji I, Homma S, Matsuura Y, Miyamura T, Wakita T, Suzuki T. Chaperonin TRiC/CCT participates in replication of hepatitis C virus genome via interaction with the viral NS5B protein. Virology. 2011;410:38-47.
- 114) 相崎英樹、脇田隆字、HCV感染における脂質代謝の変化とメタボロミクス解析、肝胆膵、東京、2011:948-953.
- 115) 相崎英樹、鈴木哲朗、脇田隆字、HCV生活環における脂質の役割、日本臨床、日本臨床社、大阪、2011: 59-63.
- 116) 鈴木哲朗、原弘道、相崎英樹、鈴木亮介、政木隆博、C型肝炎ウイルスの複製と粒子形成、日本ウイルス学会、雑誌ウイルス、東京、2011、60,87-92.
- 2.学会発表
- 1) Masaki N, Yamagiwa Y, Mizokami M. Regional differences should be considered for the more effective interferon treatment of chronic hepatitis C: Evidences on Japanese nation-wide database. APASL Liver Week 2013, Singapore, June 6-10, 2013. (ポスター発表)
- 2) 正木尚彦、溝上雅史 . 国立病院機構共同研究 [肝疾患]グループと都道府県肝疾患診療連携拠点病院網との今後の関わりについて . シンポジウム28 肝疾患共同研究の軌跡と今後の展望 . 第66回国立病院総合医学会、神戸、2012.11.17. (口演発表)
- 3) 正木尚彦、今村雅俊、泉 並木、八橋弘、祖父江友孝、新保卓郎、高橋祥一、酒井明人、井上泰輔、斉藤紘昭、青木孝彦、樋上勝也、伊藤清顕、村田一素、27自治体肝炎対策担当部署、溝上雅史 . B型・C型肝炎に対するインターフェロン医療費公費助成のアウトカムに関する検討 . 第47回日本肝臓学会総会、東京、2011.6.3. (ポスター発表)
- 4) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸. 発癌リスクと治療反応性を考慮したC型肝炎の最新治療、第99回日本消化器病学会総会(シンポジウム)、2013.3.22、鹿児島
- 5) 前川伸哉、坂本穰、榎本信幸. C型慢性肝炎の病態における肝脂肪化とPNPLA3およびIL28B 遺伝子多型の意義の検討、第99回日本消化器病学会総会(シンポジウム)、2013.3.22、鹿児島
- 6) 辰巳明久、進藤邦明、田中佳祐、津久井雄也、佐藤光明、三浦美香、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸. 肝硬度における肝線維化、発癌リスク評価、第99回日本消化器病学会総会、2013.3.22、鹿児島
- 7) Shinya Maekawa, Mika Miura, Nobutoshi Komatsu, Akihisa Tatsumi, Yukiko Asakawa, Shinichi Takano, Mitsuaki Sato, Kuniaki Shindo, Fimitake Amemiya, Yasuhiro Nakayama, Taisuke Inoue, Minoru Sakamoto, Nobuyuki

- Enomoto. An Association between Quasispecies Nature of Hepatitis C Virus Core Region and Disease Progression Analysis by Deep Sequencing. The 2nd JSGE International topic conference. 2013.3.23, Kagoshima
- 8) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸. 発癌リスクと治療反応性を考慮した最新のC型肝炎治療、第49回日本肝臓学会総会(シンポジウム)、2013.6.7、東京
 - 9) 小松信俊、坂本穰、榎本信幸、EOB-MRI肝細胞相を用いた新しいサーベイランスの可能性～clean liverからの発癌経過、第49回日本肝臓学会総会(パネルディスカッション)、2013.6.7、東京
 - 10) 佐藤光明、坂本穰、榎本信幸、肝癌と鑑別が必要な肝良性腫瘍の画像診断の実際、第49回日本肝臓学会総会(ワークショップ)、2013.6.7、東京
 - 11) 前川伸哉、三浦美香、辰巳明久、小松信俊、佐藤光明、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸、C型肝炎の病態進展に対するMICA、DEPDC5遺伝子多型の意義の検討、第49回日本肝臓学会総会(ワークショップ)、2013.6.7、東京
 - 12) 辰巳明久、進藤邦明、田中佳祐、津久井雄也、佐藤光明、三浦美香、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸. 肝硬度における肝線維化、発癌リスク評価、第49回日本肝臓学会総会、2013.6.7、東京
 - 13) 三浦美香、前川伸哉、高野伸一、小松信俊、辰巳明久、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸. 次世代シーケンサーを用いたNS5A阻害剤耐性変異の検討、第49回日本肝臓学会総会、2013.6.7、東京
 - 14) 三浦美香、前川伸哉、高野伸一、小松信俊、辰巳明久、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸. 次世代シーケンサーを用いたNS5A阻害剤耐性変異の検討、第23回ウイルス療法研究会、2013.6.14、東京
 - 15) 辰巳明久、前川伸哉、三浦美香、小松信俊、田中佳祐、津久井雄也、佐藤光明、雨宮史武、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸. 次世代 deep sequencer を用いた Telaprevir 耐性変異株の検討、第23回ウイルス療法研究会、2013.6.14、東京
 - 16) 坂本穰、発癌リスクと治療反応性からみた3剤併用療法 Y-PERS から、第7回東京肝疾患研究会(PERFECT)、2013.6.29、東京
 - 17) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸、発癌リスクと宿主・ウイルス遺伝子からみたC型肝炎治療、第17回日本肝臓学会大会(JDDW)(シンポジウム)、2013/10/10、東京
 - 18) 坂本穰、井上泰輔、榎本信幸、B型肝炎治療における疾患進展と発癌に関わるウイルスマーカー、第17回日本肝臓学会大会(JDDW)(パネルディスカッション)、2013/10/10、東京
 - 19) 坂本穰、渡邊真里、柏木賢治、榎本信幸、肝疾患コーディネーターとインターネットを用いた診療支援システムの構築、第17回日本肝臓学会大会(JDDW)、2013/10/9、東京
 - 20) 前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、C型肝炎発癌におけるMICA、DEPDC5、IL28B遺伝子多型の意義の検討、第17回日本肝臓学会大会(JDDW)(ワークショップ)、2013/10/10、東京
 - 21) 三浦美香、前川伸哉、高野伸一、小松信俊、辰巳明久、雨宮史武、中山康弘、

- 井上泰輔、坂本穰、榎本信幸、次世代シークエンサーを用いた HCV NS5A 阻害剤耐性変異の検討、第 17 回日本肝臓学会大会 (JDDW)、2013/10/10、東京
- 22) 雨宮史武、早川宏、津久井雄也、小林祥司、門倉信、山口達也、大塚博之、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、初発肝細胞癌の臨床背景検討、第 17 回日本肝臓学会大会 (JDDW)、2013/10/10、東京
- 23) 辰巳明久、進藤邦明、加藤亮、倉富夏彦、佐藤光明、小松信俊、三浦美香、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、肝硬度による慢性肝疾患の肝癌リスク評価、第 17 回日本肝臓学会大会 (JDDW)、2013/10/10、東京
- 24) 辰巳明久、佐藤光明、前川伸哉、鈴木雄一郎、広瀬純穂、小松信俊、三浦美香、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸、次世代シークエンサーにて耐性変異を確認した telaprevir を含む 3 剤併用療法で breakthrough をおこした 1 例、第 53 回日本消化器病学会甲信越支部例会、2013/11/23
- 25) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸。ウイルス変異と宿主ゲノムから見た PEG-IFN+RBV 療法の治療成績と発癌リスクを考慮した新規治療法。第 98 回日本消化器病学会総会(シンポジウム)、2012.4.20 東京
- 26) Hiroko Shindo, Shinya Maekawa, Nobutoshi Komatsu, Kazuki Komase, Mika Miura, Makoto Kadokura, Ryota Sueki, Kuniaki Shindo, Fumitake Amemiya, Yoshihiro Nakayama, Taisuke Inoue, Minoru Sakamoto, Atsuya Yamashita, Kouji Moriishi, Nbuyuki Enomoto. IL28B (IFN λ -3) and IFN- α Synergistically Inhibit HCV Replication. The 3rd International Forum 2012.4.21, Tokyo (第 98 回日本消化器病学会総会)
- 27) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸。臨床背景とウイルス変異・宿主ゲノムからみた C 型肝炎に対する治療選択。第 48 回日本肝臓学会総会(ワークショップ)、2012.6.7 金沢
- 28) 三浦美香、前川伸哉、門倉信、末木良太、小馬瀬一樹、進藤浩子、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、植竹智義、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。次世代シークエンサーを用いた肝発癌に関連する HCV 遺伝子変異の解析、第 48 回日本肝臓学会総会(ワークショップ)、2012.6.7 金沢
- 29) 小松信俊、前川伸哉、進藤邦明、三浦美香、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。次世代シークエンサーを用いた Telaprevir 耐性変異株の検討、第 48 回日本肝臓学会総会(ワークショップ)、2012.6.7 金沢
- 30) 佐藤光明、坂本穰、辰巳明久、小松信俊、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、榎本信幸。肝癌診療における画像情報ネットワークの構築と有用性、第 48 回日本肝臓学会研究会、2012.7.21、金沢
- 31) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸。発癌リスクとウイルス排除の可能性からみた最新の C 型肝炎治療、第 16 回日本肝臓学会大会 (JDDW2012) (シンポジウム)、2012.10.10、神戸
- 32) 井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。高齢 C 型肝炎に対するインターフェロン治療の検討、第 16 回日本肝臓学会大会 (JDDW2012) (ワークショップ)、2012.10.10、神戸

- 33) 坂本穰、渡邊真里、井上泰輔、前川伸哉、榎本信幸、肝炎診療ネットワークにおける肝疾患コーディネーターと肝炎サポート外来、第 16 回日本肝臓学会大会 (JDDW2012)、2012.10.10、神戸
- 34) 小松信俊、前川伸哉、三浦美香、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。次世代 deep sequencer を用いた Telaprevir 耐性変異株の検討、第 16 回日本肝臓学会大会 (JDDW2012)、2012.10.10、神戸
- 35) 三浦美香、前川伸哉、小松信俊、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。次世代シーケンサーを用いた肝発癌に関連する HCV 遺伝子変異の解析、第 16 回日本肝臓学会大会 (JDDW2012)、2012.10.10、神戸
- 36) 津久井雄也、坂本穰、高田ひとみ、田中佳祐、佐藤光明、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、山本佐織、安藤典子、原田和俊、島田眞路、榎本信幸。C 型慢性肝炎に対して Peg-IFN α 2b+Ribavirin+Telaprevir 3 剤併用療法を行い、中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) を発症した 1 例、第 51 回日本消化器病学会甲信越支部、第 73 回日本消化器内視鏡学会甲信越支部合同支部例会、2012.11.17、松本
- 37) 坂本穰、井上泰輔、榎本信幸。病診連携ネットワークにおける肝疾患コーディネーターと肝炎サポート外来、第 39 回日本肝臓学会東部会 (ワークショップ)、2012.12.6、東京
- 38) 小松信俊、前川伸哉、浅川幸子、辰巳明久、三浦美香、雨宮史武、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。次世代シーケンサーを用いた肝発癌に関連した HBV Pre-S 領域の検討、第 39 回日本肝臓学会東部会、2012.12.6、東京
- 39) 進藤邦明、小松信俊、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸。初発肝細胞癌の腫瘍径と適切なサーベイランス期間の検討、第 53 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011)、2011.10.21、福岡
- 40) 横田雄大、坂本穰、小松信俊、進藤邦明、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、榎本信幸。腹部超音波検査による肝がん検診、第 15 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011)、2011.10.21、福岡
- 41) 進藤邦明、小松信俊、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸。肝硬度を用いた肝癌高リスク群の囲い込み、第 15 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011)、2011.10.21、福岡
- 42) 井上泰輔、坂本穰、榎本信幸。ウイルス肝炎ネットワークの構築と診療均てん化への取り組み、第 15 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011)、(パネルディスカッション)、2011.10.20、福岡
- 43) 前川伸哉、坂本穰、榎本信幸。HCV 全長解析による IL28B SNP と独立して治療効果を規定するウイルス因子の検討、第 15 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011)、(シンポジウム)、2011.10.20、福岡
- 44) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸。ウイルス変異と宿主ゲノム解析からみた PEG-IFN+RBV 療法と protease 阻害剤の適応の検討、第 15 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011)、(シンポジウム)、2011.10.21、福岡
- 45) 中山康弘、坂本穰、小松信俊、進藤邦

- 明、雨宮史武、井上泰輔、前川伸哉、榎本信幸. アルコール性肝細胞癌の臨床的特徴とファイブロスキャンによる高危険群の抽出、第 47 回日本肝癌研究会(ワークショップ)、2011.7.28、静岡
- 46) 榎本穰、中山康弘、小松信俊、進藤邦明、雨宮史武、井上泰輔、前川伸哉、榎本信幸. C 型慢性肝炎の IFN 治療後に発癌した肝癌の疫学的・ウイルス学的特徴、第 47 回日本肝癌研究会(ワークショップ)、2011.7.28、静岡
- 47) 榎本穰、前川伸哉、榎本信幸. ウイルス因子と宿主因子からみた PEG-IFN α 2b+Ribavirin 併用療法の今後の展望. 第 5 回東京肝疾患研究会 (PERFECT)、2011.7.2、東京
- 48) 雨宮史武、辰巳明久、小松信俊、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、榎本穰、本杉宇太郎、佐野勝廣、荒木力、榎本信幸. 肝硬度を用いた肝細胞癌発癌リスクの評価、第 47 回日本肝臓学会総会、2011.6.2、東京
- 49) 中山康弘、榎本穰、榎本信幸. 肝細胞癌治療の実際とテーラーメイド医療の可能性、第 47 回日本肝臓学会総会、2011.6.2、東京
- 50) 前川伸哉、榎本穰、榎本信幸. ウイルスゲノム、および IL28B SNP 解析を用いた HCV 肝病態の検討、第 47 回日本肝臓学会総会、2011.6.3、東京
- 51) 進藤邦明、榎本穰、榎本信幸、NBNC 肝癌のサーベイランスの現状と Fibroscan を用いた発癌高危険群の囲い込み、第 47 回日本肝臓学会総会(ワークショップ)、2011.6.2、東京
- 52) 榎本穰、飯田龍一、榎本信幸. 地域がん登録からみた肝癌の実態と専門医による個別化医療の可能性、第 47 回日本肝臓学会総会、2011.6.3、東京
- 53) 榎本穰、前川伸哉、榎本信幸. ウイルス変異と宿主ゲノムからみたインターフェロン治療効果と新規治療法への期待、第 47 回日本肝臓学会総会 (パネルディスカッション)、2011.6.3、東京
- 54) 前川伸哉、榎本穰、榎本信幸. C 型慢性肝炎の病態形成における IL28 SNP とウイルス因子関与の検討. 第 97 回日本消化器病学会総会、2011.5.14、東京
- 55) 榎本穰、前川伸哉、小松信俊、雨宮史武、進藤邦明、中山康弘、井上泰輔、榎本信幸. ウイルス変異と宿主ゲノムからみた C 型慢性肝炎に対するインターフェロン治療効果と将来像、第 97 回日本消化器病学会総会、2011.5.14、東京
- 56) 酒井明人、金子周一. 1 回の専門医療機関受診を柱とした石川県肝炎診療連携の構築と状況 JDDW2011 パネルディスカッション 平成 23 年 10 月 20 日
- 57) 2) 酒井明人 石川県の肝癌撲滅戦略 The GI Forefront 7 巻 Page119-121、2012
- 58) 平嶋昇、渡邊綱正、岩瀬弘明. 当院における急性 B 型肝炎の臨床経過. 第 40 回日本肝臓学会西部会. 平成 25 年 12 月 6 日 ~ 7 日. 岐阜.
- 59) 松波加代子、渡邊綱正、飯尾悦子、遠藤美生、新海登、藤原圭、野尻俊輔、城卓志、田中靖人. 香港のオカルト B 型肝炎患者における高感度 HBsAg、HBcrAg 測定の有用性. 第 40 回日本肝臓学会西部会. 平成 25 年 12 月 6 日 ~ 7 日. 岐阜.

- 60) 飯尾悦子, 松居剛志, 狩野吉康, 村上周子, 新海登, 渡邊綱正, 城卓志, 田中靖人. 次世代シークエンサーを用いたB型肝炎ウイルスEntecavir耐性変異パターンの検討. 第40回日本肝臓学会西部会. 平成25年12月6日~7日. 岐阜.
- 61) 田上靖, 前川久登, 井上貴子, 渡邊綱正, 下田浩輝, 黒田高明, 中野利香, 笹平直樹, 田中靖人, 与芝真彰. コバス TaqMan HCV 定量法偽陰性を示した Genotype2C 型肝炎2症例の経験. 第40回日本肝臓学会西部会. 平成25年12月6日~7日. 岐阜.
- 62) 戸塚雄一郎, 野崎昭人, 荒田慎寿, 羽尾義輝, 道端信貴, 石井寛裕, 近藤正晃, 福田浩之, 沼田和司, 田中克明, 渡邊綱正, 田中靖人, 前田愼. 妊娠を契機に重症化し, on-line hemodiafiltrationにより救命し得たB型肝炎の1例. 第40回日本肝臓学会西部会. 平成25年12月6日~7日. 岐阜.
- 63) 林佐奈衣, 村上周子, 飯島沙幸, 渡邊綱正, 田中靖人. HBV Genotype Fにおける肝細胞癌特異的ウイルス変異の同定. 第61回日本ウイルス学会学術集会. 平成25年11月10日~12日. 神戸.
- 64) 井上貴子, 渡邊綱正, 都築祐二, 新海登, 可児里美, 脇本幸夫, 田中靖人. コバス TaqMan HCV 定量法で偽陰性を呈したC型肝炎(genotype2)の2症例. 第60回日本臨床検査医学会学術集会. 平成25年10月31日~11月3日. 神戸.
- 65) 新海登, 飯尾悦子, 遠藤美生, 藤原圭, 松浦健太郎, 野尻俊輔, 渡邊綱正, 城卓志, 田中靖人. 新規超高感度HBs抗原定量系の臨床的意義~アーキテクトHBsAg-QT陰性例への応用~. 第17回日本肝臓学会大会. 平成25年10月9日~10日. 東京.
- 66) 飯尾悦子, 渡邊綱正, 遠藤美生, 松浦健太郎, 新海登, 藤原圭, 野尻俊輔, 田中靖人. パキスタン受刑者におけるC型肝炎ウイルスの分子疫学的研究. 第49回日本肝臓学会総会. 平成25年6月6日~7日. 東京.
- 67) 田中靖人, 新海登, 渡邊綱正. 免疫複合体転移-化学発光酵素免疫測定法(ICT-CLEIA法)による超高感度HBs抗原測定試薬の基礎的・臨床的性能評価. 第49回日本肝臓学会総会. 平成25年6月6~7日. 東京.
- 68) Watanabe T, Inoue T, Tanoue Y, Maekawa H, Iio E, Matsunami K, Shinkai N, Yoshida M, Tanaka Y. Hepatitis C Virus Genotype 2 may not be detected by the Cobas AmpliPrep/Cobas TaqMan HCV Test, version 1.0. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases. Nov. 1-5, 2013. Washington, DC.
- 69) Shinkai N, Iio E, Watanabe T, Matsuura K, Endo M, Fujiwara K, Nojiri S, Joh T, Tanaka Y. Application of a newly-developed high sensitivity HBsAg chemiluminescent enzyme immunoassay“Lumipulse HBsAg-HQ“ for hepatitis B patients with HBsAg seroclearance. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases. Nov. 1-5, 2013. Washington, DC.
- 70) Wong D, Watanabe T, Tanaka Y, Seto WK, Lee CK, Fung J, Lin CK,

- Huang FY, Lai CL, Yuen MF . Role of HLA-DP polymorphisms on chronicity and disease activity of hepatitis B infection in the Chinese. The Asian Pacific Association for the Study of the Liver . June 6-10,2013. Singapore.
- 71) HIV 合併例を含めた B 型急性肝炎症例の検討. 渡邊綱正、杉浦互、田中靖人. 第 39 回日本肝臓学会東部会. 平成 24 年 12 月 6 日~7 日. 東京. シンポジウム.
- 72) HIV 合併 HBV 感染例に対するペグインターフェロン治療. 渡邊綱正、横幕能行、今村淳治、杉浦互、田中靖人. 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会. 平成 24 年 11 月 24 日~26 日. 横浜 口演.
- 73) HIV 合併 HBV 感染例において核酸アナログ add-on ペグインターフェロン併用療法による HBs 抗原セロコンバージョンの可能性. 渡邊綱正、横幕能行、杉浦互、田中靖人. JDDW2012. 平成 24 年 10 月 10 日~11 日. 神戸.
- 74) B 型肝炎既往感染患者における HBs 抗体価の性差. 飯尾悦子, 渡邊綱正, 松浦健太郎, 日下部篤宣, 新海登, 藤原圭, 宮木知克, 野尻俊輔, 城卓志, 田中靖人. 第 16 回日本肝臓学会大会. 平成 24 年 10 月 10 日~11 日. 神戸.
- 75) IP-10 の治療前, 治療開始早期の推移と治療効果, ウイルス動態に与える影響. 松浦健太郎, 飯尾悦子, 日下部篤宣, 新海登, 藤原圭, 宮木知克, 野尻俊輔, 村上周子, 渡邊綱正, 折戸悦朗, 城卓志, 田中靖人. 2 剤, 3 剤併用療法における, 第 16 回日本肝臓学会大会. 平成 24 年 10 月 10 日~11 日. 神戸
- 76) 末梢血単核球を用いた C 型慢性肝炎患者 PEG-IFN/RBV 投与直後の ISG 挙動. 飯島沙幸, 渡邊綱正, 松浦健太郎, 飯尾悦子, 新海登, 村上周子, 田中靖人. 第 16 回日本肝臓学会大会. 平成 24 年 10 月 10 日~11 日. 神戸
- 77) 新海登, 松浦健太郎, 渡邊綱正, 村上周子, 宮木知克, 藤原圭, 日下部篤宣, 飯尾悦子, 野尻俊輔, 城卓志, 田中靖人. 核酸アナログを投与した B 型慢性肝炎患者における interferon-inducible protein-10 値の動態. 第 16 回日本肝臓学会大会. 平成 24 年 10 月 10 日~11 日. 神戸
- 78) C 型肝炎治療効果を修飾するインターフェロン シグナルの解析当院. 渡邊綱正、飯島沙幸、田中靖人. 第 48 回日本肝臓学会総会. 平成 24 年 6 月 7 日~8 日. 金沢. オープンワークショップ.
- 79) C 型慢性肝炎における臨床背景の違いと治療法選択の現状と展開. 松浦健太郎, 田中靖人, 飯尾悦子, 日下部篤宣, 新海登, 宮木知克, 野尻俊輔, 渡邊綱正, 藤原圭, 折戸悦朗, 城卓志, 溝上雅史. IP-10 値を含めた PEG-IFN/RBV 療法における治療予測因子の検討. 第 48 回日本肝臓学会総会. 平成 24 年 6 月 7 日~8 日. 石川
- 80) IL28B genetic variants and serum IP-10 level associated with virological response to PEG-IFN/RBV and PEGIFN/RBV/Telaprevir therapy. Matsuura K, Tanaka Y, Watanabe T, Murakami S, Iio E, Endo M, Shinkai N, Fujiwara K, Miyaki T, Nojiri S, Joh T, Kusakabe A, Orito E, Mizokami M. The 63rd Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver

- Diseases. Nov.9-13, 2012. Boston.
- 81) Characteristics of anti-HBs titers by gender and age in HBV-resolved patients. Iio E, Watanabe T, Tanaka Y, Matsuura K, Shinkai N, Nojiri S, Joh T. The 63rd Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases. Nov.9-13, 2012. Boston.
- 82) Immune restoration hepatitis B associated with anti-retroviral therapy for human immunodeficiency virus. Watanabe T, Iijima S, Murakami S, Iio E, Shinkai N, Matsuura K, Yokomaku Y, Imamura J, Sugiura W, Tanaka Y. International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B Viruses. Sep.22-25,2012. London.
- 83) 当院における B 型慢性肝疾患の genotype 分布とその特徴. 飯尾悦子、松浦健太郎、日下部篤宣、新海登、宮木知克、渡邊綱正、菅内文中、野尻俊輔、城卓志、溝上雅史、田中靖人. 第 39 回日本肝臓学会西部会. 平成 23 年 12 月 9 日 ~ 10 日. 岡山 ワークショップ
- 84) HIV 合併例を含めた B 型急性肝炎症例の検討.渡邊綱正、杉浦互、田中靖人. 第 39 回日本肝臓学会西部会. 平成 23 年 12 月 9 日 ~ 10 日. 岡山 ワークショップ
- 85) IL28B および ITPA SNPs 解析によるペグインターフェロン・リバビリン併用療法の効果予測. 可児里美, 柏木有美, 松浦健太郎, 新海登, 菅内文中, 渡邊綱正, 脇本幸夫, 田中靖人. 日本臨床検査医学会学術集会. 平成 23 年 11 月 17 日 ~ 20 日. 岡山 口演
- 86) K. Yoshioka, H. Shimazaki, N. Kawabe, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, Y. Arima, T. Kan, M. Ohki, K. Nakaoka, T. Yuka, T. Nishikawa, K. Osakabe, N. Ichino, S. Hashimoto. Genetic variant I148M in PNPLA3 is associated with acoustic radiation force impulse imaging in patients with NAFLD. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washinton 2013.11.2.
- 87) 2. N. Kawabe, S. Hashimoto, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, H. Shimazaki, Y. Arima, T. Kan, N. Kazunori, M. Ohki, T. Yuka, T. Nishikawa, K. Osakabe, N. Ichino, K. Yoshioka. Impact of patatin-like phospholipase domain-containing protein 3 (PNPLA3) polymorphism on steatosis and fibrosis in patients with chronic hepatitis C treated with pegylated interferon plus ribavirin. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washinton 2013.11.4.
- 88) T. Kan, K. Osakabe, N. Kawabe, S. Hashimoto, M. Harata, Y. Nitta, M. Murao, T. Nakano, Y. Arima, H. Shimazaki, M. Ohki, K. Nakaoka, T. Yuka, T. Nishikawa, N. Ichino, K. Yoshioka. Acoustic radiation force impulse imaging for evaluation of antiviral treatment response in chronic hepatitis C. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases, Washinton 2013.11.5.
- 89) 川部直人・橋本千樹・市野直浩・刑部恵介・西川徹・大城昌史・菅敏樹・水

- 野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・吉岡健太郎：肝脂肪化と PNPLA3 遺伝子多型の関係 C 型慢性肝炎における検討 .第 49 回日本肝臓学会総会 ポスターセッション 東京 2013.6.7
- 90) 菅敏樹・高川友花・大城昌史・中岡和徳・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎：当院における C 型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法の使用経験 . 第 49 回日本肝臓学会総会 ポスターセッション 東京 2013.6.7
- 91) 菅敏樹・高川友花・大城昌史・中岡和徳・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎：当院における C 型慢性肝炎に対する Telaprevir を含む 3 剤併用療法の使用経験 . 第 17 回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10
- 92) 嶋崎宏明・川部直人・橋本千樹・原田雅生・村尾道人・新田佳史・中野卓二・水野裕子・菅敏樹・中岡和徳・大城昌史・高川友花・青山和佳奈・西川徹・吉岡健太郎：NASH 診断における肝硬度測定の有用性 ARFI による検討 . 第 17 回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10
- 93) 川部直人・橋本千樹・原田雅生・村尾道人・新田佳史・中野卓二・水野裕子・菅敏樹・中岡和徳・大城昌史・高川友花・西川徹・刑部恵介・市野直浩・吉岡健太郎：C 型慢性肝炎に対するインターフェロン治療による肝硬度の变化 ARFI による検討 第 17 回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10
- 94) 村尾道人・川部直人・橋本千樹・原田雅生・新田佳史・中野卓二・嶋崎宏明・水野裕子・菅敏樹・中岡和徳・大城昌史・高川友花・吉岡健太郎：C 型肝炎に対するペグインターフェロン+リバビリン併用療法後の発癌についての検討 . 第 17 回日本肝臓学会大会 ポスターセッション 東京 2013.10.9-10
- 95) 兒玉俊彦・高川友花・大城昌史・中岡和徳・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・村尾道人・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎：B および C 型肝炎ウイルス検診陽性者に対するアンケート調査 . 第 40 回日本肝臓学会西部会一般演題 岐阜 2013.12.6
- 96) 嶋崎宏明・川部直人・吉岡健太郎：NAFLD における PNPLA3 の SNP と ARFI による Vs 値との関係 . 第 40 回日本肝臓学会西部会ワークショップ 岐阜 2013.12.6
- 97) 菅敏樹・大城昌史・水野裕子・嶋崎宏明・中野卓二・村尾道人・新田佳史・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎：当院における C 型慢性肝炎に対する Telaprevir を含む 3 剤併用療法の使用経験 . 第 99 回日本消化器病学会総会 ポスターセッション 鹿児島 2013.3.21-23
- 98) 川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎：C 型肝炎治療困難例に対する瀉血、IFN 療法、脾摘/PSE 後の PEG-IFN 療法の検討 . 第 99 回日本消化器病学会

- 総会 ワークショップ 鹿児島
2013.3.21-23
- 99) Harata M, Yoshioka K, Kawabe N, Hashimoto S, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Shimazaki H, Kan T, Ohki M. Liver stiffness increases with age and correlates with development of hepatocellular carcinoma in HCV infected patients. The 10th JSH Single Topic Conference “Hepatitis C: Best Practice Based on Science” Tokyo 2012.11.21-22.
- 100) 原田雅生・川部直人・吉岡健太郎:HCV 感染者における ARFI による肝硬度測定の有用性の検討 第 16 回日本肝臓学会大会(JDDW2012) ワークショップ神戸 2012.10.10~13
- 101) 川部直人・橋本千樹・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・嶋崎宏明・有馬裕子・吉岡健太郎:進行肝細胞癌に対するシスプラチン動注を併用した TACE の有効性と安全性の検討 第 16 回日本肝臓学会大会(JDDW2012) 神戸 2012.10.10~13
- 102) 土居崎正雄・片野義明・本田隆・林和彦・石上雅敏・石川哲也・中野功・浦野文博・吉岡健太郎・豊田秀徳・熊田卓・山口丈夫・春田純一・後藤秀実:late responder に対するペグインターフェロン $\alpha 2b$ ・リバビリン 72 週投与の治療効果と core と ISDR 変異・IL28B 一塩基多型の関連についての検討 第 48 回日本肝臓学会総会 オープンワークショップ 金沢 2012.6.7-8
- 103) 川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎:C 型肝硬変に対するインターフェロン治療の工夫. 第 48 回日本肝臓学会総会 ワークショップ 金沢 2012.6.7-8
- 104) 有馬裕子・橋本千樹・吉岡健太郎・川部直人・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・嶋崎宏明・市野直浩・刑部恵介・西川徹:肝硬度による C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN・RBV 併用療法の治療効果予測 .第 48 回日本肝臓学会総会 ポスターセッション 金沢 2012.6.7-8
- 105) 西川徹・吉岡健太郎・橋本千樹・川部直人・原田雅生・市野直浩・刑部恵介・加藤美穂・杉山博子・青山和佳奈:HCV 感染症における VTTQ による肝線維化評価 JSUM2012 日本超音波医学会第 85 回学術集会 一般口演東京 2012.5.25~27
- 106) 嶋崎宏明・有馬裕子・中野卓二・村尾道人・新田佳史・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎・刑部恵介・市野直浩・西川徹:C 型慢性肝炎における ARFI による肝線維化評価 第 98 回日本消化器病学会総会 一般演題東京 2012.4.19-21
- 107) 嶋崎宏明・橋本千樹・川部直人・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・有馬裕子・刑部恵介・市野直浩・西川徹・青山和佳奈・吉岡健太郎: NAFLD における Acoustic Radiation Force Impulse(ARFI)の有用性の検討 第 97 回日本消化器病学会総会・ミニシンポジウム 2011.5.13~15 東京
- 108) 川部直人・橋本千樹・西川徹・

- 刑部恵介・市野直浩・嶋崎宏明・中野卓二・原田雅生・吉岡健太郎: Acoustic Radiation Force Impulse(ARFI)による非侵襲的肝線維化評価と肝発癌予測 JSUM2011 日本超音波医学会第 84 回学術集会・特別演題企画 2011.5.27~29 東京
- 109) 西川徹・吉岡健太郎・橋本千樹・川部直人・原田雅生・市野直浩・刑部恵介・杉山博子・青山和佳奈: 肝臓における Virtual Touch Tissue Quantification のせん断波計測の検討 JSUM2011 日本超音波医学会第 84 回学術集会・一般口演 2011.5.27~29 東京
- 110) 村尾道人・橋本千樹・吉岡健太郎: C型慢性肝炎に対する治療効果と IL28B・ITPA 遺伝子多型が及ぼす影響 第 47 回日本肝臓学会総会・ポスターセッション 2011.6.2~3 東京
- 111) 新田佳史・橋本千樹・川部直人・原田雅生・村尾道人・中野卓二・有馬裕子・嶋崎宏明・吉岡健太郎: 自己免疫性肝炎における肝硬度測定 第 47 回日本肝臓学会総会・ポスターセッション 2011.6.2~3 東京
- 112) 川部直人・橋本千樹・西川徹・原田雅生・新田佳史・村尾道人・中野卓二・嶋崎宏明・有馬裕子・吉岡健太郎: 肝がん検診における ARFI (Acoustic Radiation Force Impulse)導入の有用性 第 53 回日本消化器病学会大会(JDDW2011) 2011.10.20~23 福岡
- 113) 村尾道人・有馬裕子・嶋崎宏明・中野卓二・新田佳史・原田雅生・川部直人・橋本千樹・吉岡健太郎: C型慢性肝炎に対する ISDR・コア領域の変異・IL28B 遺伝子多型と治療効果について 第 15 回日本肝臓学会大会 (JDDW2011) 2011.10.20~23 福岡
- 114) Murao M, Yoshioka K, Nishikawa T, Hashimoto S, Kawabe N, Harata M, Nitta Y, Nakano T, Arima Y, Shimazaki H, Ichino N, Osakabe K. IL28B SNP, ITPA SNP and mutation of core region and interferon sensitivity determining region of HCV: their effects on the response to PEG-IFN/RBV therapy in patients with chronic HCV genotype 1 infection. The 62nd Annual Meeting of The American Association for The Study of Liver Diseases 2011.11.4-8 San Francisco.
- 115) Yoshioka K, Nishikawa T, Hashimoto S, Kawabe N, Harata M, Nitta Y, Murao M, Nakano T, Arima Y, Shimazaki H, Ichino N, Osakabe K. Acoustic radiation force impulse elastography for evaluation of fibrosis stage and prediction of hepatocellular carcinoma in chronic HCV infection. The 62nd Annual Meeting of The American Association for The Study of Liver Diseases 2011.11.4-8 San Francisco.
- 116) 金森寛幸、中尾春壽、佐藤 顕、米田政志: 当院における B 型慢性肝疾患に対する核酸アナログ治療の問題点 薬剤耐性遺伝子変異 第115回日本消化器病学会支部例会
- 117) 中尾春壽、山本高也、金森寛幸、大橋知彦、中出幸臣、佐藤 顕、伊藤清顕、米田政志: 肝炎ウイルス検診陽性者の追跡調査。現状と課題。第49回日本肝臓学会総会
- 118) 石上 雅敏 片野 義明、後藤 秀実 慢性B型肝炎ウイルス(HBV)キャリアにおける血清HBVマーカーの意義 第49

- 回日本肝臓学会総会、一般口演、東京、2013
- 119) 石上 雅敏、片野 義明、後藤 秀実 慢性B型肝炎各病期における臨床パラメーターの特徴 第49回日本肝臓学会総会、ポスター、東京、2013
- 120) Hayashi K, Katano Y, Ishizu Y, Kuzuya T, Honda T, Ishigami M, Goto H Real-Time Tissue Elastography for the Assessment of Liver Fibrosis in Patients With Chronic Hepatitis C and Correlation With Response to Pegylated-Interferon-Alpha 2B and Ribavirin Combination Therapy. Digestive Disease Week 2013, Orlando, USA, 2013
- 121) Honda T, Katano Y, Nakano S, Ishizu Y, Kuzuya T, Hayashi K, Ishigami M, Goto H Effect of Combination Therapy Peginterferon Alfa-2B and Ribavirin on Prevention of Hepatocellular Carcinoma in Patients With Chronic Hepatitis C and Normal Aminotransferase Levels Digestive Disease Week 2013, Orlando, USA, 2013
- 122) 片野 義明、石上 雅敏、後藤 秀実 PEGIFN /Ribavirin/Telaprevir 3剤併用療法の治療効果 第17回肝臓学会大会、シンポジウム、東京、2013
- 123) 林 和彦、片野 義明、後藤 秀実、今井 則博、阿知波 宏一、荒川 恭宏、山田 恵一、中野 聡、石津 洋二、葛谷 貞二、本多 隆、石上 雅敏 ペグインターフェロン 2b+リバビリン+テラプレビル療法とC型慢性肝炎のNS3領域変異についての検討 第49回日本肝臓学会総会、ワークショップ、東京、2013
- 124) 林 和彦、片野 義明、今井 則博、阿知波 宏一、荒川 恭宏、山田 恵一、中野 聡、石津 洋二、葛谷 貞二、本多 隆、石上 雅敏、石川 哲也、中野 功、後藤 秀実 ベトナムのB型急性肝炎とB型慢性肝炎におけるHBV subgenotypeについての検討 第17回日本肝臓学会大会、ポスター、東京、2013
- 125) 荒川 恭宏、今井 則博、阿知波 宏一、山田 恵一、中野 聡、増田 寛子、石津 洋二、葛谷 貞二、本多 隆、林 和彦、石上 雅敏、片野 義明、後藤 秀実 B型肝炎に対するエンテカビル治療と肝発癌効果の検討 第49回日本肝臓学会総会、東京、2013
- 126) 山田 恵一、今井 則博、阿知波 宏一、荒川 恭宏、中野 聡、石津 洋二、葛谷 貞二、本多 隆、林 和彦、石上 雅敏、片野 義明、後藤 秀実 HCV genotype 3aにおけるcore、ISDR変異、IL28BとIFN治療効果についての検討 第49回日本肝臓学会総会、一般口演、東京、2013
- 127) 片野 義明、石上 雅敏、後藤 秀実 PEGIFN /Ribavirin/Telaprevir 3剤併用療法の治療効果の検討 第49回日本肝臓学会総会、一般口演、東京、2013
- 128) 石津 洋二、片野 義明、中野 聡、増田 寛子、及部 祐加子、葛谷 貞二、舘 佳彦、本多 隆、林 和彦、石上 雅敏、中野 功、後藤 秀実 C型慢性肝炎患者に対するペグインターフェロン・リバビリン療法におけるHFE遺伝子変異の影響 第48回日本肝臓学会総会、一般口演、金沢、2012
- 129) 舘 佳彦、片野 義明、後藤 秀実、中野 聡、増田 寛子、石津 洋二、葛谷 貞二、本多 隆、林 和彦、石上 雅敏、小野 幸矢、鮫島 庸一 C型慢性肝炎患者における肝酸化ストレスの肝発癌に

- 対しての関連性についての検討 第48回日本肝臓学会総会、一般口演、金沢、2012
- 130) 本多 隆、片野 義明、中野 聡、増田 寛子、及部 祐加子、石津 洋二、葛谷 貞二、舘 佳彦、林 和彦、石上 雅敏、中野 功、石川 哲也、後藤 秀実 C型肝炎線維化進展例におけるペグインターフェロン/リバビリン併用療法の発癌抑制効果 第48回日本肝臓学会総会、ワークショップ、金沢、2012
- 131) Honda T, Katano Y, Kuzuya T, Hayashi K, Ishigami M, Nakano I, Toyoda H, Kumada T, Yoshioka K, Goto H. Effect of combination therapy peginterferon alfa-2b and ribavirin on prevention of hepatocellular carcinoma in advanced chronic hepatitis C. The 63rd American Association for the Study of Liver Diseases, Boston, 2012
- 132) 片野 義明、石上 雅敏、後藤 秀実 C型慢性肝炎に対する発癌を考慮した治療戦略 第16回日本肝臓学会大会 シンポジウム、神戸、2012
- 133) Aoki T, Iijima H, Yoshida M, Takashima T, Aizawa N, Yoh K, Hashimoto K, Nakano C, Ikeda N, Tanaka H, Saito M, Enomoto H, Nishiguchi S. Analysis of risk factors for aiming at early detection of hepatocellular carcinoma. The 64rd Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD2012) 2013.11 Washington
- 134) 青木智子、飯島尋子、西口修平 . アルコールが肝発癌に与える影響 . 第99回日本消化器病学会総会 2013 .3 鹿児島
- 135) 青木智子、西口修平、飯島尋子 . Shear waveによる肝線維化診断と発癌予測 . (シンポジウム) 日本超音波医学会第86回学術集会(JSUM2012) 2013.5 大阪
- 136) Iwamoto M, Watashi K, Tsukuda S, Aly HH, Suzuki R, Aizaki H, Koivai H, Kusuhara H, Wakita T : Mechanistic analysis on hepatitis B virus entry in an NTCP-overexpressing cell line. 2013 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses. 2013.10.20-23, Shanghai, China.
- 137) Tsukuda S, Watashi K, Iwamoto M, Suzuki R, Aizaki H, Kojima S, Wakita T. A Retinoid Derivative Inhibits Hepatitis B Virus Entry Mediated by NTCP. International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B Viruses. 2013.10.20-23. Shanghai, China.
- 138) Watashi K, Liang G, Iwamoto M, Marusawa H, Kitamura K, Muramatsu M, Suzuki R, Li J, Tong S, Tanaka Y, Murata K, Aizaki H, Wakita T. Interleukin-1 and tumor necrosis factor-alpha trigger restriction of hepatitis B virus infection via a cytidine deaminase AID. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, 2013.10.20-23. Shanghai, China.
- 139) Fujimoto A, Aizaki H, Matsuda M, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Suzuki T, Miyamura T, Wakita T, Dynamics of the cellular metabolome during hepatitis C virus infection: Regulation of the lipoprotein

- metabolisms by hepatic lipase, 20th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Melbourne, Australia, 2013.10.6-10.
- 140) Nakajima S, Watashi K, Kamisuki S, Takemoto K, Suzuki R, Aizaki H, Sugawara F, Wakita T, Identification of a natural product inhibiting the transcriptional activity of liver X receptor and reducing the production of infectious HCV, 20th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Melbourne, Australia, 2013.10.6-10.
- 141) Nakajima S, Watashi K, Kamisuki S, Takemoto K, Suzuki R, Aizaki H, Sugawara F, Wakita T, Analysis of bioactivity of fungal-derived natural products based on a virus infection system, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Yokohama, 2013.10.28-29.
- 142) Suzuki R, Konishi E, Ishikawa T, Matsuda M, Watashi K, Aizaki H, Takasaki T, Wakita T. Production of single-round infectious chimeric flaviviruses with a DNA-based Japanese encephalitis virus replicon. Keystone Symposia, Positive Strand RNA Viruses, Boston, U.S.A. 2013.4.28-5.3
- 143) Aizaki H, Dynamic metabolomics change in HCV-infected cells, The 2013 Italy-Japan Liver Workshop“Hepatitis, Steatosis and Hepatocellular Carcinoma: molecular basis and clinical links”, Italy 2013.10.20-21.
- 144) Aizaki H, Watanabe N, Aoyagi H, Hmwe SS, Watashi K, Suzuki R, Kojima S, Matsuura T, Wake K, Miyamura T, Suzuki T, Wakita T, Hepatitis C virus RNA replication in human stellate cells regulates gene expression of extracellular matrix-related molecules, International Symposium on Cells of the Hepatic Sinusoid, Osaka, 2013.9.23-25.
- 145) Sakata K, Hara M, Terada T, Watanabe N, Yaguchi S, Matsumoto M, Shirouzu M, Yokoyama S, Miyazawa K, Aizaki H, Suzuki T, Wakita T, Kojima S. HCV NS3 protease plus TNF- α promotes liver fibrosis via stimulating expression and activation of TGF- β type I receptor,第20回肝細胞研究会, Osaka, 2013.9.26-27.
- 146) Aoyagi H, Aizaki H, Matsumoto Y, Matsuda M, Hmwe SS, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Ichinose S, Matsuura T, Suzuki T, Wake K, Miyamura T, Wakita T. Antiviral activity of glycyrrhizin against hepatitis C virus in vitro, The 12th Awaji international forum on infection and immunity, 2013.9.10-13.
- 147) Nagamori S, Aizaki H, Matsumoto Y, Isozumi N, Wiriyasermkul P, Matsuura T, Kanai Y, Comprehensive and comparative proteomics reveals alterations of metabolomics between monolayer and three-dimensional cell cultures. 12th Human Proteome Organization World Congress 2013. 9.14-18.

- Yokohama.
- 148) Aoyagi H, Aizaki H, Matsumoto Y, Matsuda M, Hmwe SS, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Ichinose S, Matsuura T, Suzuki T, Wake K, Miyamura T, Wakita T. Regulation of Hepatitis C virus (HCV) release by phospholipase A2 and autophagy -Antiviral Activity of Glycyrrhizin against HCV, 日本分子生物学会第36回年会, 2013年12月3-6日, 神戸.
- 149) 鈴木亮介、石川知弘、小西英二、嵯峨涼平、松田麻未、渡士幸一、相崎英樹、高崎智彦、脇田隆字. プラスミドトランスフェクションによるトランスパッケージング型1回感染性フラビウイルス産生系の確立. 日本分子生物学会第36回年会, 2013年12月3-6日, 神戸.
- 150) 松田麻未、斎藤憲司、鈴木亮介、佐藤充、鐘ヶ江裕美、渡士幸一、相崎英樹、千葉丈、斎藤泉、脇田隆字、鈴木哲朗. 細胞内発現抗体(イントラボディ)によるC型肝炎ウイルスの増殖抑制. 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 151) 鈴木亮介、小西英二、石川知弘、嵯峨涼平、松田麻未、渡士幸一、相崎英樹、高崎智彦、脇田隆字. 日本脳炎ウイルスレプリコンを用いたトランスパッケージング型1回感染性フラビウイルス粒子産生系の開発. 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 152) 青柳東代, 相崎英樹, 藤本陽, 松本喜弘, 松田麻未, Su Su Hmwe, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 市野瀨志津子, 松浦知和, 鈴木哲朗, 和氣健二郎, 宮村達男, 脇田隆字. Phospholipase A2およびAutophagyによるC型肝炎ウイルス(HCV)分泌過程の制御 -グリチルリチンによる抗HCV作用-, 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 153) 藤本陽, 相崎英樹, 松田麻未, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 鈴木哲朗, 宮村達男, 脇田隆字, C型肝炎ウイルス感染による宿主細胞の脂質代謝変化とHepatic Lipase発現制御, 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 154) 内田奈々子、渡士幸一、中嶋 翔、岩本将士、鈴木亮介、相崎英樹、千葉丈、脇田隆字, C型肝炎ウイルス分泌過程はphospholipase Dが関わる膜輸送により制御される, 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 155) 九十田千子、渡士幸一、岩本将士、鈴木亮介、相崎英樹、小嶋聡一、脇田隆字, B型肝炎ウイルス侵入阻害剤の同定およびそのNTCPを介した感染阻害機構の解明, 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 156) 岩本将士、渡士幸一、九十田千子、Hussein Hassan Aly、鈴木亮介、相崎英樹、小祝 修、楠原洋之、脇田隆字: ヒトNTCP安定発現細胞株におけるB型肝炎ウイルス侵入機構の解析. 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 157) 渡邊則幸, 伊達朋子, 相崎英樹, 脇田隆字: エンベロープペプチドを用いたHCV感染に重要なアミノ酸領域の探索, 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 158) 後藤耕司, 相崎英樹, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 山越智, 四柳宏, 森屋恭爾, 小池和彦, 鈴木哲朗, 宮村達男, 脇田隆字, C型肝炎ウイルスNS5A

- 結合タンパク質ELAVL1のウイルス複製・翻訳スイッチング機構の解析, 日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 159) 渡士幸一、Guoxin Liang、岩本将士、丸澤宏之、喜多村晃一、村松正道、鈴木亮介、相崎英樹、脇田隆字、IL-1/TNF α によるシチジンデアミナーゼAID誘導を介したB型肝炎ウイルス感染排除機構、日本ウイルス学会第61回学術集会, 2013年11月10-12日, 神戸.
- 160) 中嶋翔、渡士幸一、紙透伸治、竹本健二、鈴木亮介、相崎英樹、菅原二三男、脇田隆字、Liver X Receptor 転写活性および感染性C型肝炎ウイルス粒子産生を阻害する天然有機化合物の同定、第61回日本ウイルス学会学術集会、2013年11月10-12日, 神戸.
- 161) 井戸田一朗、加藤康幸、青柳東代、相崎英樹、脇田隆字, 当院で経験した、HIV陽性者における急性C型肝炎の集団発生について, 第27回日本エイズ学会, 2013年11月20-22日, 熊本.
- 162) 相崎英樹、オートファジィにかかる治療戦略2014、2013年2月15日, 東京.
- 163) Ando T, Aizaki H, Sugiyama M, Mizokami M, Kuroda M, Wakita T. Independent evolution of multi-dominant viral genome species observed in a single HCV carrier. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 164) Watashi K, Uchida N, Saeed M, Suzuki R, Aizaki H, Wakita T. Characterization of anti-HCV release inhibitors targeting phospholipase D. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 165) Matsumoto Y, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Matsuura T, Suzuki T, Miyaura T, Wake K, Wakita T, Aizaki H. Antiviral activity of glycyrrhizin against Hepatitis C virus in vitro. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 166) Akazawa D, Moriyama M, Yokokawa N, Watanabe N, Date T, Morikawa K, Aizaki H, Ishii K, Kato T, Nakamura N, Wakita T. Neutralizing antibodies induced by cell culture-derived Hepatitis C virus was effective both in vitro and in vivo. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 167) Kim S, Date T, Aizaki H, Watanabe H, Wakita T. NS3 protease derived from genotype 1b Con1 attenuates viral replication. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 168) Uchida N, Watashi K, Suzuki R, Aizaki H, Chiba J, Wakita T. Phospholipase D regulates membrane trafficking during Hepatitis C virus egress. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 169) Suzuki R, Matsuda M, Watashi K, Aizaki H, Matsuura Y, Suzuki T, Wakita T. An alternative endocytosis pathway for the

- productive entry of Hepatitis C virus. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 170) Watanabe N, Date T, Hussein Aly H, Aizaki H, Wakita T. Neutralization antibody induction by immunization with E2 proteins purified from different cells. 19th International Meeting on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Lido-Venice, Italy 2012.
- 171) Matsumoto Y, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Matsuura T, Suzuki T, Miyamura T, Ichinose S, Wake K, Wakita T, Aizaki H. Antiviral activity of glycyrrhizin against hepatitis C virus in vitro. The 11th Awaji International Forum on Infection and Immunity. Awaji, Japan. 2012.
- 172) Matsumoto Y, Matsuura T, Suzuki T, Wake K, Wakita T, Aizaki H. Antiviral activity of glycyrrhizin against Hepatitis C virus in vitro. The 10th JSH single topic conference, Tokyo 2012.
- 173) Suzuki R, Matsuda M, Watashi K, Aizaki H, Matsuura Y, Miyamura T, Wakita T, Suzuki T. Identification of a host factor that interacts with hepatitis virus NS2 protein and participates in the viral assembly. The 10th JSH single topic conference, Tokyo 2012.
- 174) Matsuda M, Suzuki R, Watashi K, Aizaki H, Matsuura Y, Miyamura T, Wakita T, Suzuki T. An alternative endocytosis pathway for the infectious entry of hepatitis C virus. The 10th JSH single topic conference, Tokyo 2012.
- 175) Kim S, Date T, Aizaki H, Watanabe H, Wakita T. NS3 protease derived from genotype 1b Con1 attenuates viral replication. The 10th JSH single topic conference, Tokyo 2012.
- 176) Watanabe N, Date T, Aizaki H, Wakita T. The role of envelope N-glycans in HCV lifecycle. The 10th JSH single topic conference, Tokyo 2012.
- 177) Watashi K, Uchida N, Suzuki R, Aizaki H, Wakita T. Phospholipase D is a cellular regulator during hepatitis C virus egress and a possible target for antiviral strategy. The 10th JSH single topic conference, Tokyo 2012.
- 178) Aizaki H. Identification of lipid droplet-associated membrane proteins that are involved in HCV productio、The 1st International Symposium on Latent TGF-β Activation Reaction・RIKEN Symposium、Hyogo、2012.
- 179) 相崎英樹、HCV感染に伴う宿主の代謝の変化-脂質代謝、エネルギー代謝を中心に-、The 11th Hepatitis Expert Meeting・学術講演会・教育講演、東京、2012.
- 180) 坂田幸太郎、原詳子、鈴木哲郎、相崎英樹、脇田隆字、小嶋聡一、C型肝炎ウイルスNS3プロテアーゼによるTGF-β疑似活性の発現、第48回日本肝臓学会総会・シンポジウム、金沢、2012.
- 181) 相崎英樹、HCV粒子形成に関する宿主因子の同定と解析、平成24年度遺伝子病制御研究所研究集会、感染・免疫・炎症・発癌、北海道、2012.

- 182) 松田麻未、鈴木亮介、渡士幸一、相崎英樹、松浦善治、鈴木哲朗、脇田隆字、C型肝炎ウイルスの一過性感染性粒子を用いた細胞内侵入機構の解析、第60回日本ウイルス学会学術集会、大阪、2012.
- 183) 渡士幸一、内田奈々子、大東卓史、清原知子、鈴木亮介、相崎英樹、脇田隆字、IL-1およびTNF-alphaのB型肝炎ウイルス感染阻害効果、第60回日本ウイルス学会学術集会、大阪、2012.
- 184) 安東友美、相崎英樹、杉山真也、溝上雅史、黒田誠、脇田隆字、C型肝炎ウイルスのquasispecies解析、第60回日本ウイルス学会学術集会、大阪、2012.
- 185) 松本喜弘、渡邊則幸、渡士幸一、鈴木亮介、松浦知和、鈴木哲朗、宮村達男、和氣健二郎、脇田隆字、相崎英樹、グリチルリチンのC型肝炎ウイルスに対する抗ウイルス作用の解析、第60回日本ウイルス学会学術集会、大阪、2012.
- 186) 渡邊則幸、伊達朋子、Aly Hussein、相崎英樹、脇田隆字、異なる細胞を用いて作成したE2タンパク質の中和抗体誘導効果、第60回日本ウイルス学会学術集会、大阪、2012.
- 187) 相崎英樹、HCV粒子形成に關与する脂肪滴周辺蛋白の同定と機能解析、Liver Forum in Kyoto 第14回学術集会、京都、2012.

H. 知的所有權の出願・取得状況

- 1.特許取得
なし
- 2.実用新案登録
なし
- 3.その他
なし